

伊藤ハムグループ 2008年 CSR報告書

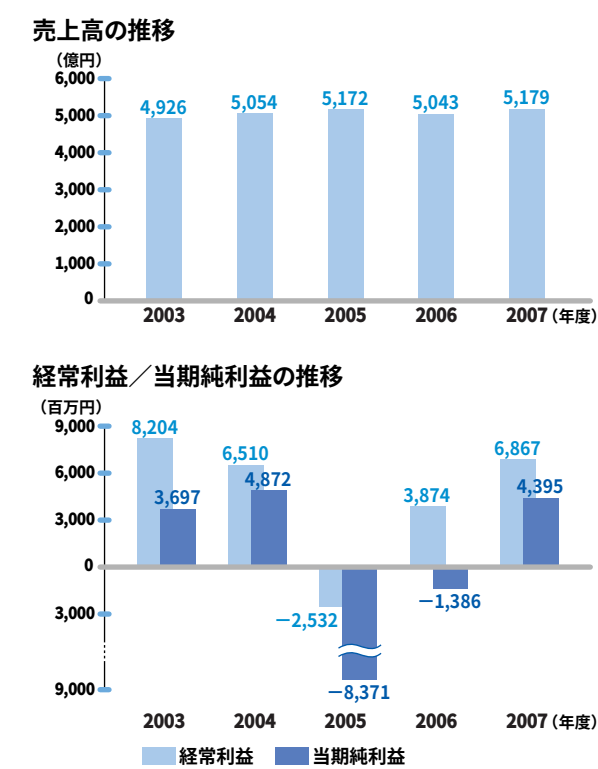
Ito Ham Group Corporate Social Responsibility Report



会社概要 (2008年3月現在)

会社名	伊藤ハム株式会社		
設立	1948年(昭和23年)		
創業	1928年(昭和3年)		
本社事務所	兵庫県西宮市高畑町4番27号		
代表者	代表取締役社長 河西 力		
資本金	224億1,500万円		
売上高	5,179億5,000万円(連結)		
連結対象会社	連結子会社	37社	
	持分法適用関連会社	13社	
従業員数	2,023人(連結:5,276人)		
主な事業	● 食肉加工品の製造および販売 ● 食肉の加工および販売 ● 調理加工食品、惣菜類の製造および販売 など		

業績(連結)



INDEX

会社概要/「2008年 CSR報告書」について	1
-------------------------	---

1 トップコミットメント	
ごあいさつ	3

2 マネジメント	
経営方針/社是/企業理念/グループ経営ビジョン	5
コンプライアンス	6

3 消費者の皆様とともに	
安全・安心への取り組み	9
お客様の声の反映	10
食育	11

4 株主・投資家様とともに	
企業情報開示・IR活動/株主総会/株主優待制度	13

5 地域社会とともに	
社会貢献活動	14
自然保護活動	16

6 従業員とともに	
人材の育成・雇用	17
労働安全衛生/健康管理	18

7 環境保全活動	
環境宣言/基本理念/行動指針	19
2007年度の活動ハイライト	20
環境負荷の全体像	21
部門別の環境負荷	22
第3次中期環境目標の取り組み結果と自己評価	23
マネジメント	25
環境会計	27
環境保全活動の沿革	28
環境負荷低減の取り組み	29
環境情報開示	34
従業員教育・地域とのコミュニケーション	35
環境データ	36

「2008年 CSR報告書」について

編集方針

伊藤ハムでは、2000年から環境保全の取り組みをとりまとめた「環境報告書」を発行し、今年で9回目の発行となります。2005年からは、社会的側面の記述を充実させて、タイトルを「社会・環境報告書」として発行してきましたが、今年は、「企業の社会的責任」(Corporate Social Responsibility)に対する私たちの取り組み姿勢を皆様にご報告し、ご理解いただくために、社会的側面の記述をさらに充実させ、タイトルを「CSR報告書」と改めました。制作にあたっては、分かりやすい表現、デザインとなるように心掛けました。今年は、開示すべき事項で優先度の高いものや皆様の関心が高いと思われるものを掲載し、サイトごとの詳細データ等については、Webサイト(弊社ホームページ)に掲載します。

対象範囲など

◇報告対象組織	基本的には伊藤ハムグループの取り組みを報告していますが、一部の報告では伊藤ハム株式会社、もしくは弊社およびグループの生産工場に限定している場合があります。
◇報告対象分野	伊藤ハムグループが取り組みを行う社会的活動および環境保全活動
◇対象期間	基本的には2007年度(2007年4月1日から2008年3月31日)の取り組みを報告していますが、一部では2007年度以前、以降についても報告しています。
◇参考にしたガイドライン	環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版および2007年度版)」 GRI「サステナビリティ レポーティング ガイドライン2006」

※「7 環境保全活動」の事業所写真は、原則として伊藤ハム(株)のものを掲載しています。関連会社の事業所を掲載した場合は、注釈に当該社名および事業所名を記載しました。

食のため 社会のため 地球のため 貢献し続ける 企業グループを 目指して



代表取締役社長

河内 力

事業を通じて社会に奉仕

伊藤ハムは、お客様、お取引先様、地域社会、従業員など、さまざまなステークホルダーの皆様方のご支援を賜り、2008年、おかげさまで創業80周年という節目の年を迎えることができました。節目というものは、前向きに考えることができれば、自分たちのモチベーションを高揚させるきっかけとなり、大いなるチャンスと捉えることができます。

これを契機として、今まで以上に社会から信頼される企業を目指してまいります。伊藤ハムグループでは、「事業を通じて社会に奉仕する」を社是とし、創業以来、社会から信頼される企業であり続けるために、事業分野はもちろんのこと、社会貢献活動、地球環境への配慮などの分野においても、さまざまな取り組みを実践してまいりました。

コンプライアンスの強化

昨今、企業をめぐる社会的環境は激変しており、今まで良かったから、これからも良いという保証はありません。社会性を持たない企業の存続はあり得ません。そのような中、コンプライアンスは企業の社会的責任を果たすための大前提になっている大切な姿勢、考え方です。コンプライアンスが確実になされてこそ、企業の本当の価値も向上しますし、企業の持続性も保つことができると認識しており、全従業員が一丸となってコンプライアンスの徹底、強化に取り組んでまいります。

人材の育成、良好な職場環境の確保

企業の社会的責任を果たしていくためには、活力ある企業風土の醸成と人材の育成が不可欠であると認識しています。活力ある企業風土を醸成するた

めに、また、従業員は会社の大切な財産であるという思いから、人材の育成、能力開発の促進、仕事と育児の両立支援に力を注ぐとともに、従業員が安全で安心して働ける職場環境の実現を目指しています。

「食育」を通して食文化へ貢献

「食べる」ことの喜びや楽しさ、大切さをステークホルダーの皆様方にお伝えしていくことは伊藤ハムグループの使命であり、「伝えていきたい食べるよろこび」を食育活動のメインメッセージとして「食育」に関するさまざまな活動に取り組んでいます。

活動の一例を挙げますと、創業80周年企画の一環として、子ども達の「食」に対する関心が高まる内容で構成した、学習研究社の『まんがでよくわかるシリーズ39「ハム・ソーセージのひみつ」』の制作に、全面協力いたしました。今後も、食育活動理念に則って取り組みを実践することが、コーポレートメッセージである「あふれる笑顔」の実現に通じると考えております。

地域に根ざした社会貢献活動

企業の社会的責任を果たしていくためには、本業はもちろんのこと、従業員の社会への参画意識や帰属意識を高めていくことも重要であると認識しています。その対応の一環として、従業員の社会貢献活動への積極的な参加を促すために、ボランティア体験学習やボランティアセミナーを開催し、従業員のボランティアマインドの醸成に努めています。

具体的な社会貢献活動として、一例を挙げますと、「こうべ森の学校」の活動は、発足当初から継続して従業員のボランティア派遣と活動資金の提供を行っています。特に、地域とのコミュニケーションを深めるために実施している自然観察、野外炊事体験

や、「食」や「環境」、ウインナーの手作りについて楽しく学んでいただく工場見学などは、近隣住民の方々との良きコミュニケーションの場として定着しています。

地球温暖化を防止するために

昨今、北極やグリーンランドの氷壁や氷床の融解、局地的な異常気象、台風の大型化、砂漠化や干ばつの進行など、世界を取り巻く環境が大幅に変化しています。これらは地球温暖化に起因すると考えられていますが、地球温暖化の問題は、喫緊に対応すべき課題であり、国、行政、企業、市民が一体となって解決すべき課題であると認識しています。

京都議定書約束期間の元年を迎え、伊藤ハムグループでも、地球温暖化防止、二酸化炭素の排出削減を企業の社会的責任として位置付け、生産部門、オフィス部門における省エネルギー・省資源対策や、物流部門におけるエネルギー使用量の削減など、二酸化炭素の排出削減に向けて継続して力を注いでまいります。

幅広い情報開示

ステークホルダーの皆様方に伊藤ハムグループの活動について、より深くご理解いただくために、2008年は、これまでの「社会・環境報告書」を「CSR報告書」に改め、コンプライアンスの取り組みや社会貢献活動、環境保全活動をさらに充実させるとともに、人材の育成や企業情報の開示など、幅広い分野にわたって、ご報告いたします。

この報告書を通じて、伊藤ハムグループの活動とその成果に対するご理解、さらには皆様からの忌憚のないご意見、ご鞭撻を賜れば幸いに存じます。

2008年6月

経営方針

伊藤ハムグループは、社会から信頼される企業であり続けるために、事業分野はもちろんのこと、地球環境への配慮、企業倫理の遵守、社会貢献活動などの分野においても、社会の一員としての責任を果たせるように努力します。

伊藤ハムグループのメッセージは「あふれる笑顔」です。安全・安心な商品をご提供するのはもちろんのこと、企業精神である「強く、正しく、遅しく」を固く守り、楽しさや安らぎ、喜びを感じていただけるような、明るく元気いっぱいの輝く企業を目指します。

社 是

事業を通じて社会に奉仕する

企業理念

1 使 命

伊藤ハムグループは価値ある商品・サービスを提供することで、健全な生活の基盤となる「食べる」ことの喜びや楽しさ、大切さを伝えていきます。

2 経営姿勢

- ・コンプライアンス（企業倫理の遵守）を徹底し、透明性の高い経営を行うことで、社会から信頼される企業を目指します。
- ・お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けします。
- ・環境にやさしい企業活動を推進します。
- ・社員は会社の大切な財産です。能力主義・成果主義を重視し、何事にもチャレンジする活力ある職場を目指します。

グループ経営ビジョン

1 ▶ 「経営品質の高い会社を目指します。」

コンプライアンス（企業倫理の遵守）を経営の基本とし、コーポレートガバナンスを確実に実現することにより企業の持続性を図るとともに、地球環境に配慮し、社会に貢献できる企業を目指します。

2 ▶ 「利益ある成長を続け、企業価値の最大化を図ります。」

食肉事業と食肉を中心とした加工食肉事業を強化し、シナジー効果の見込める成長分野へ積極展開するとともに、海外市場での販路拡大を推進することにより新たな成長を目指します。さらにローコスト経営を推進することで、外部環境に左右されない利益体質を確立します。

3 ▶ 「チャレンジ精神の高揚と活力ある企業風土作りを目指します。」

機能的で効率的な組織により、ムダを省きスピードを重視する経営を行います。人材の育成、能力開発を促進するとともに、人事の流動化を図り、活力ある企業風土を醸成します。

コンプライアンス

ステークホルダーの皆様からの信頼を高め、健全で誠実な企業経営を行ううえで守るべき考え方を「企業倫理規範」として策定しています。企業価値の向上の

ためには、企業倫理の高い公正な企業経営を徹底することが基本であると考え、コンプライアンス（企業倫理の遵守）の強化に取り組んでいます。

コンプライアンスの意味と目的

●コンプライアンスとは・・・

一般的には「法令遵守」を意味しますが、伊藤ハムグループでは「企業倫理の遵守」と定義します。

●コンプライアンスの目的・・・

経営方針に沿って、会社および役員・従業員等が企業活動を円滑に行ううえで、遵守すべき普遍的な考え方を規定し、その実践によって企業価値の向上を目指すとともに社会的貢献に努め企業の持続性を図ることです。

企業倫理規範

1. 公正な行動

伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。

2. 倫理観と遵法の精神

常に遵法を心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。

3. 関係法令の社内徹底

事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規程の制定と教育・アナウンスなどを通じて社内徹底を図ります。

4. 法令違反の早期是正と厳正対処

業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。



コンプライアンス・ハンドブック

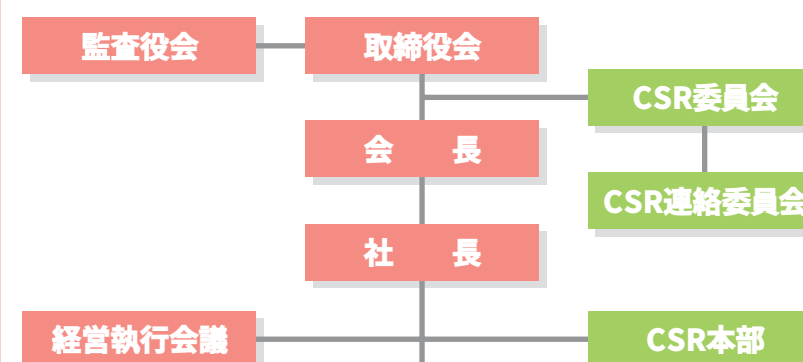
組織

伊藤ハムグループでは、CSR本部が中核となってコンプライアンスを推進しています。

CSR本部の目的は、伊藤ハムグループの役員をはじめ、全従業員のコンプライアンスに対するさらなる意識向上、並びに実践の企業風土を徹底浸透させるとともに、内部監査体制の強化・拡充です。

本部長は「コンプライアンス違反行為に対しては社長代行として改善指示が出来る権限」を持ち、その責任は「監査等を通じた問題点の早期発見・社長及び取締役会への報告／現場への改善指示／是正プロセス及び結果の確認と社長及び取締役会への報告」となります。

【CSR推進組織図】



【推進活動内容に対する基本的な考え方】

- ・社会的な常識を正しく認識するための情報提供と指導
- ・社内の問題点を早期に発見し、改善につなげるための積極的な活動
- ・社内各事業本部（本部）機能、管理部門の連携
- ・特定の部署や個人が情報を囲い込むことがないよう、風通し良く開かれた組織風土、企業体質の確立
- ・社内外の声を真摯に聞く、開かれた姿勢
- ・マイナス情報を含めた積極的な社内外への情報発信による説明責任の履行

CSR委員会とCSR連絡委員会

◆CSR委員会

【役割】第三者の目でCSR体制をチェックし、その結果を取締役会に提言を行います。

【構成】委員長	島田 恒 (大阪商業大学教授)
委員 (順不同)	堅正 憲一郎 (社外監査役) 藤原 俊夫 (監査役) 池村 昌人 (伊藤ハム労働組合中央執行委員長) 増崎 知次 (監査室長) 岩本 信剛 (CSR本部長)
事務局	CSR本部・コンプライアンス推進室

◆CSR連絡委員会

【役割】各部署での課題・問題を全社で共有します。

【構成】委員長	CSR本部長
委員	各部門責任者
事務局	CSR本部・コンプライアンス推進室

コンプライアンスに関する規程の整備

コンプライアンスに関するルールを明確化し、従業員に周知するためにコンプライアンスに関する規程の整備を進めています。



「社内通報規程」

コンプライアンス推進規程	コンプライアンスの実践やコンプライアンス推進体制などについて定めています。
社内通報規程	相談窓口の対応手順や通報・相談者の保護などについて定めています。
内部者取引管理規程	証券取引および関連法規に違反する内部者取引を未然に防止するために、役職員の職務に関して取得した未公表の内部情報(重要事実と同義)の管理、役職員の株式等の売買その他の取引および役職員の職務に際して遵守すべき基本的事項を定めています。
個人情報取扱規程	個人情報の取得、保管、利用、廃棄のプロセスを定めています。

情報セキュリティの維持・向上

伊藤ハムグループは、全役員並びに全従業員のIT利用に関して、「伊藤ハムグループIT利用規則」を定め、法令・社内の諸規程および社会倫理に反する利用や、お客様を含めた一般社会に不利益を与える利用を厳しく禁じるとともに、技術の進歩や業務環境の変化等も考慮のうえ、情報資産のリスク評価を継続的に実施し、情報セキュリティの維持・向上に努めています。

従業員教育

従業員のCSRやコンプライアンスに対する意識・関心を高め、行動に結びつけるために、CSR講習会、新入社員研修、階層別研修や部門研修、所長会議や店長会議など、さまざまな場面でコンプライアンスについての教育を行っています。



研修風景

適切な情報の開示および共有化

従業員にコンプライアンス・マインドを浸透させ、日常業務の中で実践するために、周知・啓発活動を行っています。効果を高めるために社内イントラネットや社内報を使ってコンプライアンスに関する情報を開示しています。



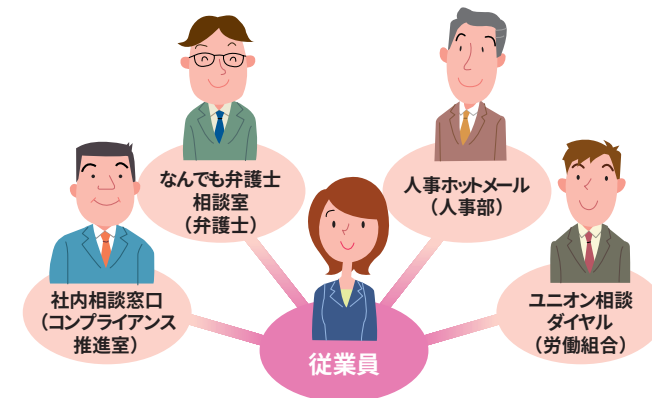
社内イントラネット



社内報「YAKUDO」

相談窓口の設置

違法行為、社内ルール違反や社会的良識からの逸脱を見かけたり、疑問を感じた場合には、まず上司に報告することを基本としています。しかし、それが難しく従業員がコンプライアンスに関することで困ったとき、悩んだときの相談先として次のような窓口を設置しています。



また、社外への窓口として、ホームページとお客様相談室 (フリーダイヤル:0120-011186) を設置しています。



コンプライアンスカード

トピックス

モバイルニュースCSR版の運用

昨今の社会状況から、種々の事故・事件が発生した場合、企業として同種の事故・事件を防止するために、すみやかな情報伝達、および情報共有化は不可欠となってきました。

これらを迅速に行うために、従来、従業員の携帯端

コンプライアンスデー

従業員のコンプライアンス・マインドのさらなる浸透と定着を図るために、毎年9月1日を「コンプライアンスデー」と定め、標語の募集、アンケートの実施やポスターの掲示を行っています。



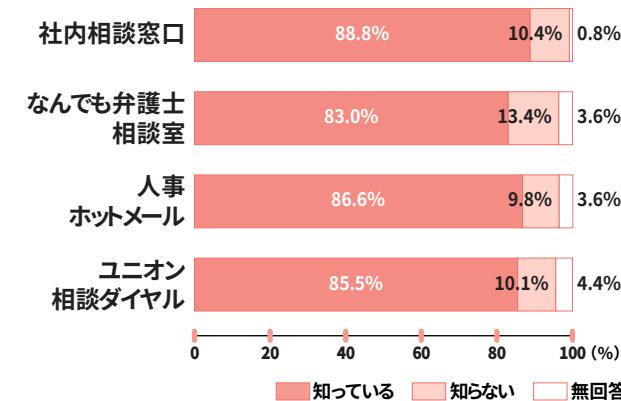
ポスター

意識調査の実施

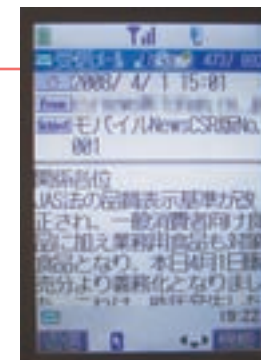
コンプライアンス・マインドの浸透状況を把握し、推進活動に役立てるとともに、従業員にその結果を報告し、各職場での実践につなげています。

【第6回コンプライアンス意識調査結果(正社員対象)】(抜粋)

●あなたは、次の伊藤ハムグループ共通の相談窓口を知っていますか。



目的：コンプライアンスの浸透状況を把握し、今後の活動に活かすため
 期間：2007年10月25日～11月27日
 対象：伊藤ハムグループに所属する社員番号末桁4の正社員



末に配信してきた企業情報「モバイルニュース」に、今年度よりCSR版として、CSR活動に関わる情報発信を開始しました。

消費者の皆様「安全」「安心」な商品をお届けし、食べることの喜びや楽しさ、大切さをお伝えするために、さまざまな取り組みを行っています。

安全・安心への取り組み

ISO22000の取り組み

伊藤ハムでは、食肉事業部門の生産事業所で食品安全のマネジメントシステムの国際規格であるISO22000の認証取得を進めています。2005年12月にグループ会社であるサンキョーミート(株)有明ミート工場、食肉業界では初となるISO22000の認証を取得。以降も順次認証取得拠点を拡大しており、食肉事業部門の全生産事業所での認証取得を目指しています。

ISO22000は、品質管理の国際規格であるISO9001をベースとして、工程管理にHACCPを取り入れた食品安全に特化した国際規格です。

認証取得事業所一覧 → P36



ISO22000適合証明証

食肉のトレーサビリティ

お客様に安全とともに安心をお届けするために、伊藤ハム国産食肉統合品質管理システム(IHIQ/Ito Ham Integrated Meat Quality Management System)を導入し、食肉のトレーサビリティ(生産・流通履歴の確保)

に取り組んでいます。詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.itoham.co.jp/farm/anzen/tracea/index.html>

食品表示の研修会

食品表示はさまざまな法律が関係し、非常に複雑なものになっています。また、消費者の皆様に関心が高まり、その重要性が増してきました。伊藤ハムグループとしても、正しく、消費者の皆様に分かりやすい表示を行うことを使命と考えています。

CSR本部品質保証部では、定期的に社内食品表示研修会を行い、表示の理解を深めています。また、生産

を委託している社外協力工場を対象とした食品表示研修会も開催し、情報の共有・表示知識の向上に努めています。



社内食品表示研修会

品質保証監査

安全・安心な商品を提供するために、CSR本部品質保証部は、伊藤ハムグループ各工場および国内外の社外協力工場に対して、第三者的立場から客観的な品質保証監査を定期的に行っています。伊藤ハムグループ各工場の品質保証監査では、監査終了後、工場幹部を交え、見つかった問題点についてミーティングを行い、迅速に改善に取り組むようにしています。

国内外の社外協力工場については、百数十に及ぶ

項目について品質保証監査を実施し、取引の可否を判定します。取引開始後は、定期的な指導に加え、常に情報交換を行い、より高いレベルの品質保証体制の構築を目指しています。

また、商品の物流部門、直売店に対しても定期的に品質保証監査を実施しています。お客様に安心していただけるよう、品質保証監査を継続し、品質向上に努めています。

お客様の声の反映

もっとおいしくコミュニティ

「もっとおいしくコミュニティ」は“お客様の視点からの自由な発想によるご意見”によって、弊社商品をもっと良い商品にすることを目的として2004年11月よりスタートしました。

もっと良くなった商品の一例

【アメリカンミートスティック】
焼いて食べると香ばしく、とても美味しいという味覚面での評価と、レンジで簡単に食べられるという簡便性の点で高い評価をいただきました。



参加されているお客様は食品に興味をお持ちの主婦の方で、期間は半年。そのメンバーのご意見を参考に、開発・改良された商品には、パッケージに「もっとおいしくコミュニティ」ロゴマークを貼付しています。



もっとおいしくコミュニティ



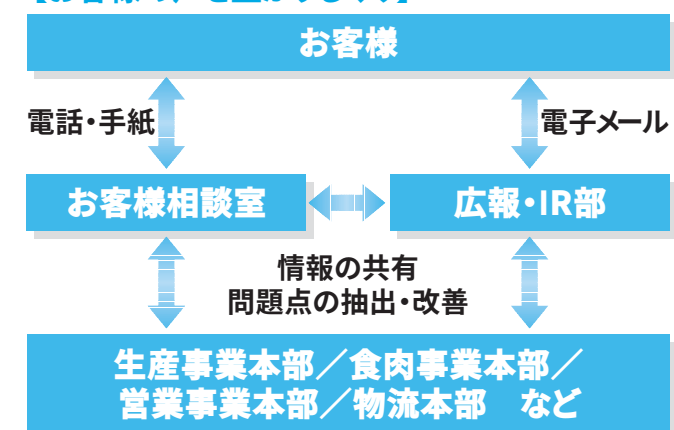
ロゴマークは、多くの皆様の「あふれる笑顔」をイメージし、顔の真中においしさへの驚きや感嘆を表現しています。

お客様相談室

伊藤ハムグループお客様相談室では、お客様からのお問い合わせ・ご意見を、電話やお手紙、電子メールで受け付けています。

特にお問い合わせには、電話で内容を詳しく伺い、誠意ある対応を迅速に行うことを心掛けています。また、ご指摘いただいた内容については、関係部門と情報を共有し、問題点の抽出・改善に努めています。

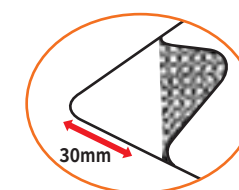
【お客様の声を生かすしくみ】



お客様の声を反映した製品

お客様相談室では「お客様の声」を関係部署に伝え、商品の改善・開発に役立てています。

その一例が、エンボス加工の開封口。「真空パックの商品の開封口がくっついて開けづらい」とのご意見から、開封口にエンボス加工を採用し、お客様から「開けやすくなった」とのお言葉をいただきました。



凹凸模様を型押ししたエンボス





2005年に「食育基本法」が公布されてから「食」への関心が高まり、企業や学校、地域でさまざまな取り組みが行われています。伊藤ハムでは2007年1月、「食育

に関する基本理念」を制定。食品に携わる企業として、食べることの喜びや楽しさ、大切さを伝える活動を積極的に展開しています。

「食育」に関する基本理念

食育活動理念

伊藤ハムは、健全な生活の基礎となる「食」の大切さや楽しさを伝え、今、求められている「家族揃っての食事」が、語らいや団らんを育むことを伝えていきます

メインメッセージ

伝えていきたい
食べるよろこび

食育活動方針

- 安全・安心で良質なたんぱく質を提供します
- 正しい食習慣をサポートします
- 貴重な食資源を大切にします
- 楽しい食文化を発信します

コーポレートメッセージ

あふれる笑顔

「あふれる笑顔」を実現させるために、食育活動を推進していきます



子ども達のための「食」への理解を深める活動

“食とeco” わくわく探検隊

▶ 詳しくは14ページへ

野外での体験活動を通して、子ども達に「食」と自然の大切さを伝える活動です。

「あふれる笑顔」に癒されます

伊藤ハム(株) 法務部法務室
長谷 奈美

緑豊かな自然の中で、子ども達と一緒に、「食」について楽しく考えることができました。子ども達の『あふれる笑顔』に癒されます。



キッズプロジェクト 「ハム工場を学ぼう」

▶ 詳しくは14ページへ

工場見学、ウインナー手作り体験を通じて、「食」に対する関心を高めていただくための活動です。

家族のコミュニケーションが深まります

伊藤ハム(株) 総務部総務課
松本 智佐子

このイベントが食育や環境問題をご家族で話し合う良い機会になっていると思います。ウインナー作りを体験している子ども達の笑顔はステキでした。



食育活動のテーマ

伊藤ハムでは2007年を「食育元年」と位置づけ、食育活動に注力。社会貢献活動や店頭での訴求、商品

開発、「食」への理解を深める活動などを通じて、「正しい食のライフスタイル」を提案しています。

テーマ
1

1日の活力源である朝食を
食肉加工品や食肉を使って
食べることを提案します

最近子どもから大人まで、朝食を食べない人が増えてきています。朝食を抜くと脳のエネルギー源であるブドウ糖が不足してしまいます。その結果、イライラしたり、頭が活発に働かず、勉強や仕事に集中できないという悪影響を及ぼします。

テーマ
3

食肉や食肉加工品を使って
野菜をおいしく食べることが
できるように提案します

厚生労働省が推奨する成人1日の野菜摂取量は350グラム以上ですが、野菜嫌いや外食などで、摂取不足になることも多いようです。食肉を上手に使うことで、野菜はもっとおいしく食べられます。

テーマ
2

良質なたんぱく源である
食肉や食肉加工品のバランスの
良い食べ方を提案します

食肉はたんぱく質など豊富な栄養素の多い食品ですが、身体に応じた食べ方が必要です。食肉の過剰摂取は健康に良くありませんが、最近は高齢者などに多い食肉の過剰摂取や、ダイエットでの摂取不足といった問題があります。つまり食べ方のバランスが大事なのです。

テーマ
4

子どもの健全な成長に役立つ
食肉や食肉加工品の情報を
分かりやすく伝えます

近年、子どもの食物アレルギー疾患が増加する傾向にあります。また、低添加物の食品や、原料原産地などの情報に対するニーズも高まってきました。このような背景から、商品に関する情報を分かりやすく、正しく伝えていくことが食育活動の基本であると考えています。

「ハム・ソーセージのひみつ」発刊に協力

伊藤ハムでは、創業80周年企画の一環として、「食育」をテーマにストーリーを描いた学習研究社『まんがでよくわかるシリーズ39「ハム・ソーセージのひみつ」』の制作に全面協力しました。

内容は、小学校5年生のサッカー少年が「朝食の大切さ」「バランスの良い食事」「おいしく野菜を食べる方法」などに気づき、伊藤ハムの工場見学からハムやソーセージの知識を学ぶと同時に、家族揃っての食事が団らんや語らいを育むことに目覚めていくというお話。また、この本から「食」に対する関心がさらに高まることを願って、2008年4月に、全国の小学校に約23,500部、公立図書館に約3,000部を寄贈しました。



「まんがでよくわかるシリーズ」は日本PTA全国協議会で推薦された漫画書籍で、全国の小学校の図書室や公立図書館に置かれています。

「食」の大切さを実感

伊藤ハム(株) 宣伝企画部宣伝販促課
太田 健一

この漫画を制作していくうちに、私自身も改めて「食」の大切さを実感しました。この本は、もちろん子ども達に読んでもらいたいのですが、大人が読んで面白く内容になっています。是非一読くだ



4 株主・投資家様とともに

株主・投資家の皆様に株主還元を実施するとともに、
長期的な企業価値の向上を目指し、経営情報を開示します。

企業情報開示・IR活動

伊藤ハムではさまざまな機会やメディアを通じて、株主や投資家の皆様への適時適正な情報開示に努めています。

ホームページによる情報開示

伊藤ハムではホームページにおいて、適時適正な情報開示に努めています。



ホームページ画面

「伊藤ハム」ホームページ

<http://www.itoham.co.jp>

「株主・投資家の皆様へ」ホームページ

<http://www.itoham.co.jp/corporate/ir/syaze.html>

株主様向け報告書の発行

株主様向け報告書として、年次報告書および中間報告書を年に1回ずつ発行し、財務情報などをタイムリーにお伝えしています。



第68期中間報告書

決算説明会

決算および中間決算発表後、アナリスト・機関投資家様などを対象に開催しています。説明会資料については、ホームページにも掲載しています。

アニュアルレポートの作成

英文のアニュアルレポートを作成し、海外の投資家・アナリスト様に送付しています。

株主総会

開かれた株主総会を目指して

最近、会社を取り巻く環境が目まぐるしく変化してゆく中、株主総会は経営方針を決める場としてその重要性が高まっています。

伊藤ハムにおいても、株主総会を最高意思決定機関として、また株主様と意見を交換できる貴重な場と捉え、開かれた総会運営を目指しています。この一環として、事業報告と計算書類などを報告する場面で、議長の説明に合わせてグラフや写真映像などを大型スクリーンで投影するなど、株主様への分かりやすい説明に努めています。質疑応答の場面では、例年貴重な質問やご意見をいただき、それぞれに誠意をもって回答するよう努めています。



株主総会

株主優待制度

伊藤ハムでは、株主の皆様に感謝の意を表すとともに、伊藤ハムの製品をより身近に感じていただくことを目的として、株式1,000株以上保有の株主様に対して、年1回（時期6月）、5,000円相当の製品を贈呈する、株主優待を実施しています。



株主優待品（2007年6月送付）

5 地域社会とともに

良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にして、
社会貢献活動、自然保護活動を持続的に推進しています。

社会貢献活動

“食とeco” わくわく探検隊



野外炊事風景

一般公募で行う「伊藤ハム“食とeco” わくわく探検隊」を、兵庫県西宮市や東京都目黒区で実施しています（西宮市・東京都目黒区在住の方対象）。

この活動は参加者に、地域の豊かな自然の中で、収穫体験や自然観察、森林の恵みを利用した地球環境にやさしい炊事を行うことで、食べ物と環境のかかわり、自然環境と生命の大切さを伝えるために行う活動です。



生き物を観察



伊藤ハム“食とeco” わくわく探検隊

キッズプロジェクト「ハム工場を学ぼう」

一般公募で行う「ハム工場を学ぼう」を西宮工場（兵庫県西宮市）で毎年実施しています（西宮市在住の方対象）。

この活動は、子ども達の「食」に対する興味・関心を高めてもらうことを目的とし、ウインナーの手作り体験・工場見学・試食などを行います。参加者から、「ウインナー作りは本当に楽しめました。子ども達も自分の作ったウインナーを普段よりもいっぱい食べていました」「工場は衛生面がきちっとしているので安心感がありました」などの感想をいただきました。



参加者の皆さん



ウインナーの手作り体験

環境学習「出前授業」「環境講座」

NPO法人「こども環境活動支援協会」（西宮市）が主催する「環境学習支援プロジェクト」に参加し、2007年6月、武庫川女子大学附属高校で、2008年1月、西宮市立深津小学校で環境学習「出前授業」を行いました。また、2008年3月、目黒区の平町エコプラザで「エコライフめぐろ推進協会」（東京都目黒区）が主催する環境講座「エコライフの基礎知識～基本のRe」の講師を務めました。



出前授業（深津小学校）



環境講座（平町エコプラザ）

社会貢献推進期間

2003年より毎年9月1日から10月31日の2ヵ月間、従業員の意識向上と積極的な社会参加を目的とした「伊藤ハム社会貢献推進期間」を、北海道から沖縄まで260カ所の事業所で実施しています。

期間中掲示する啓発ポスターには全従業員から募集したキャッチフレーズを使用。また、全国各地の活動実態を従業員に伝え、意識啓発を図るために、主要事業所で「社会貢献パネル展」を実施しています。



社会貢献推進期間のポスター

【2007年度キャッチフレーズ】

「ありがとう 感謝の気持ちを行動に」

ユニセフ支援活動

グループの全事業所で、2003年から毎年11月1日～翌年1月31日の3ヵ月間、世界中の困難な状態にある子ども達の幸福を願ってユニセフ募金活動に取り組んでいます。2007年度は、従業員の募金総額と同額を、会社が拠出するマッチングギフトと合わせて、1,889,446円を社団法人日本ユニセフ協会に寄付しました。

また、ユニセフ外国コイン募金活動やユニセフカタログ斡旋販売も実施しています。兵庫地区と東京地区では、街頭募金「ハンド・イン・ハンド」に従業員ボランティアが参加しています。今後もユニセフの活動を支援します。



社内の募金活動



街頭募金活動「ハンド・イン・ハンド」

被災地救済支援活動

国内外の自然災害に際して、国・地方公共団体・その他の団体に対して、災害に遭った人々の生活援助を図ることを目的に、義援金の寄付や当社製品を救援物資として贈る活動を行っています。

【2007年度の活動】

7月 ● 新潟県中越沖地震の被災地
新潟県4市1町1村

ボランティア支援活動

ボランティア入門講座を開催

従業員のボランティア意識向上と社会活動への参加を促すことを目的に、社会福祉法人大阪ボランティア協会事務局長・早瀬昇氏を講師にお招きし、2004年度から毎年9月・10月に「ボランティア入門講座」を開催しています。初心者にも分かりやすいテーマと内容で行っています。

参加した従業員からは、「ボランティアへの理解が深まり、意外と身近なことがあると気づいた」「できることを実施していきたい」との声があがっていました。



ボランティア入門講座

表彰制度

顕著な社会貢献活動を継続して実施している従業員を表彰する制度を設けています。



表彰を受ける従業員

ボランティア休暇制度

環境保全、災害時の被災地救援や社会福祉などのボランティア活動に参加する場合、積み立て保存年休の範囲で1年間に10日間の休暇を取得できる、ボランティア休暇制度を導入しています。

自然保護活動

森林保護活動

2002年、緑化100周年を迎えた六甲山地で、これからの100年の森林保護と育成を目指して神戸市が進める「六甲山これからの百年の森づくり」。これを市民の手で行う「こうべ森の学校」を、伊藤ハムは運営支援しています。

「こうべ森の学校」は、市民・行政・企業が協働で森林保護育成活動を推進するプログラムで、弊社は自然保護活動の一環として活動資金の提供を行い、従業員もボランティアとして、間伐作業や植樹に参加しています。また、間伐材を利用してログハウスや木工品の製作など

を行い、2007年4月15日にはここから生まれたログハウスが完成し、市民の森林保護活動拠点として活用されています。



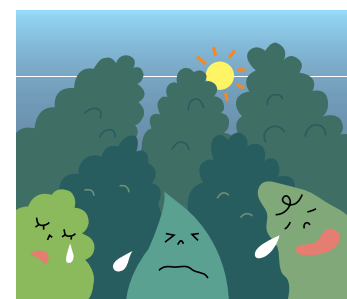
この看板ももとは間伐材



木の少ない場所にヤマザクラを植えているところ

元気がなくなった森も

人の手が入らない森は、木が茂りすぎて太陽の光や風の通りが妨げられます。



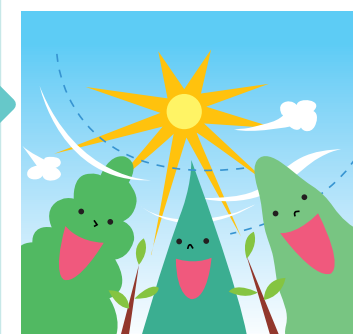
間伐をすれば

間伐によって不要な木を取り除き、木々の間に光や風を呼び込みます。



元気がよみがえります

間伐した森はすっかり元気を取り戻します。



間伐材で作られたログハウス
ほかにも木工品の材料などにも利用されています

クリーンアップ活動

豊かな自然環境を残していくために、主要工場がある地域を中心に海岸、河川、湖沼のクリーンアップ活動を行っています。

クリーンアップ石狩新港浜、伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン、ふなばし三番瀬クリーンアップ、大堀川の水辺清掃、東京ベイクリーンアップ大作戦、目黒川クリーンアップ大作戦、梅田川ふれあいクリーン作戦、クリーンアップin甲子園浜、ビーチクリーンアップin SUMA、轟木川清掃などの活動に従業員ボランティアが参加しました。



ふなばし三番瀬クリーンアップに参加

事業所周辺の美化活動

全国の工場・事業所では、環境美化と、従業員のマナーやモラル向上のため、周辺清掃活動を定期的に実施しています。

そのほか、国道4号線清掃、小矢部市530（ごみゼロ）運動、基山町クリーンアップ作戦、鳥栖商工団地早朝クリーン作戦、石狩新港地域クリーン作戦などに参加しました。



事業所周辺の清掃活動

従業員は会社の大切な財産です。何事にもチャレンジする活力ある職場、安全で安心して働ける職場環境の実現を目指します。

人材の育成・雇用

人材の育成

伊藤ハムグループでは、従業員個々の能力開発を目的とした「ビジネスリーダー育成プログラム」「キャリア開発プログラム」「部門別教育プログラム」と、これを組織の成果へとつなげるための質の高いマネジメント風土の醸成を目的とした「マネジメントプログラム」の4つの人材育成プログラムを用意しています。従業員一人ひとりの成長と組織の発展をともに実現することがその狙いです。

教育研修の多くは応募型を採用しており、高い成長意欲を持つ従業員に対し積極的に学習の門戸を開いています。



研修を通じて女性従業員のキャリア開発にも力を注いでいます

ビジネスリーダー育成プログラム	階層別リーダー育成研修
キャリア開発プログラム	新入社員研修・フォロー研修 階層別キャリアチャレンジ研修 キャリアデザイン研修(女性社員対象) 通信教育制度・語学受験制度 自己申告制度・社内公募制度
部門別教育プログラム	部門別教育研修
マネジメントプログラム	マネジメントスキル研修(管理職対象) レビュー者研修(女性社員の上司対象) 目標管理制度

障害者雇用の促進

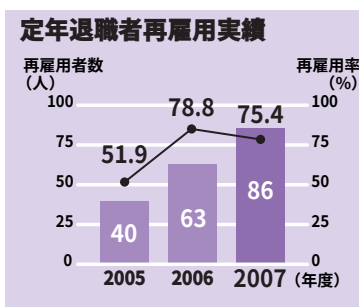
障害者雇用率は、2007年6月1日時点で、1.88%(法定雇用率1.8%)となっています。伊藤ハムは、1993年に法定雇用率(当時は1.6%)を上回って以来、現在まで雇用率を維持し続け、その間「兵庫県障害者雇用促進協会会長賞」「兵庫県知事賞」「日本障害者雇用促進協会会長賞」を受賞しています。

今後は、障害者が安心して働くことのできる環境・風土づくりになお一層取り組んでいくと同時に、法定雇用率に達していないグループ会社の雇用率向上に向け、各会社が主体性を持って適用業務の整備・拡大を図りつつ、採用活動を続けていく地盤づくりに積極的に取り組んでいきます。

定年退職者再雇用制度の拡充

定年退職後も働く意志のある従業員に気持ち良く働いてもらうことは、従業員および会社双方にとって大きなメリットがあるとの認識のもと、2006年に、従来の「定年再雇用制度」を拡充し、最長65歳までの再雇用制度を導入しました。勤務形態は、従業員本人の希望をできるだけ汲み入れ、契約時間などに関して柔軟に対応しています。

また、2008年4月より、それまで再雇用嘱託と呼称していた資格名を「シニア社員」に改め、再雇用のみでなく60歳を超えた新規採用も視野に入れるなど、少子高齢化に対応した制度運用を



仕事と育児の両立を支援

最長2年間の育児休暇期間を安心して過ごし、スムーズに職場復帰ができるよう、2007年に「育児休暇取得者職場復帰支援プログラム」を導入する一方で、「短時間・時差勤務制度」および「フレックスタイム制度」、さらには養育する子どもが病気や怪我をしたときに取得できる看護休暇など、職場復帰後の負担軽減を目的とした制度を導入して子育てを支援しています。

また、2005年4月1日に制定された「次世代育成支援対策推進法」をうけ、すべての従業員が能力を発揮できるような職場環境の整備と、育児休暇などの諸制度の充実を図ることを柱とした、「第一次次世代育成支援行動計画」を策定・実施し、2007年7月「基準適合一般事業主」の認定を受けました。

さらに、2007年4月1日から「第二次次世代育成支援行動計画」を策定、推進しており、今後ますますの支援強化、制度拡充に努めていきます。



次世代認定マーク「くるみん」

労働安全衛生

【労働安全衛生管理基本方針(2008年度)】

1. 労働安全衛生に係る法規制を遵守し、従業員の安全と健康を確保します。
2. 労働安全衛生管理基本方針を周知し、従業員の協力を得て労働安全衛生活動に取り組みます。
3. 従業員が労働安全衛生の高い意識を持ち、労働安全衛生を優先した作業が行えるように、繰り返し労働安全衛生教育を行います。
4. リスクアセスメントにより、作業及び作業環境の危険性・有害性を明確にすると共に、危険有害要因を除去し、労働災害と健康障害の未然防止に努めます。
5. 構内協力会社との連携、情報交換を十分に行い、構内協力会社と一体となった総合的な労働安全衛生管理に努めます。

中央安全衛生委員会

伊藤ハムグループの全部門で安全衛生活動を進めていくために、毎年期初に部門代表者で構成された中央安全衛生委員会を開催しています。

委員会では年度の「労働安全衛生管理基本方針」を策定し、これに従って、グループ全社全部門で安全衛生活動を進めていきます。



2008年度 中央安全衛生委員会

安全衛生教育

新入社員の入社時集合研修では、仕事の基本として、安全を身につけるために、「労働安全衛生の基本」の講義を行っています。また、生産工場では主任昇格時に「監督者安全衛生教育」を実施し、監督者のレベルアップを図るとともに職場の安全確保と意識向上に取り組んでいます。



講義風景

健康管理

健康情報

お客様に信頼していただける仕事をするために心身ともに健康でなければなりません。伊藤ハム健康保険組合では、広報誌「Kenpo」やホームページを利用して、健康診断、人間ドック、ウォーキング大会やメンタルヘルスなどの健康づくりに関する情報を従業員とその家族に向けて発信しています。

安全衛生監査

遵法の取り組みを徹底するとともに、労働災害や職業性疾病的発生防止を目的に、CSR本部環境安全推進課と事業本部スタッフ、工場の安全管理者などで構成する監査チームを結成。年度の安全衛生監査計画に基づいて主要事業場の監査を行い、継続的な改善活動に努めています。

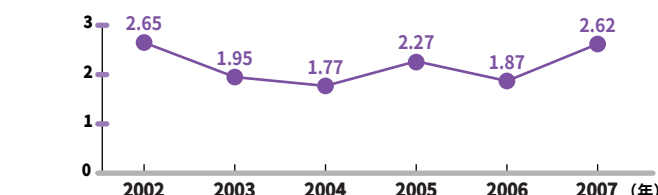
監査プログラムは書類監査とプラント監査からなり、2007年度は49事業場の監査を行い、遵法の指導と危険有害要因の改善に取り組めました。



プラント監査

千人率の推移

伊藤ハムグループ～休業4日以上労働災害



※千人率とは…労働者1,000人当たり、1年間に発生する死傷者を示すもの。

心のほっとライン

従業員の心の健康をサポートすることを目的に外部専門機関と提携し、専門的な支援を受けることができる従業員支援プログラムを導入しています。



社内事務所のポスター

環境宣言

弊社は創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」ことを社是として、食品の安全と品質の向上に努め、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。

一方、1980年代後半から環境問題が地球規模となり、経営の新しいパラダイムが求められてまいりました。私たちはこの変化に対応し、継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を通じて、経営品質の高揚を図るべく新たに環境にかかわる基本理念を掲げ、全従業員が一丸となった活動を展開することを宣言します。

基本理念

私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

行動指針

1. 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
2. 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
3. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
4. 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
5. 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。
6. 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
7. 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
8. 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、CSR報告書により情報開示します。

2007年度の活動ハイライト

伊藤ハムグループでは、事業活動における環境負荷を低減し、持続可能な社会の構築に貢献するために、さ

まざまな取り組みを行っています。ここでは、2007年度に行った取り組み内容をハイライトで紹介します。

環境監査の実施

監査計画に基づいて環境監査を実施しています。問題点の早期発見、早期是正に取り組んでいます。



九州工場



ロイヤルデリカ(株)本社工場

詳しくは → P25

緊急時の対応訓練の実施

ISO14001認証取得事業所では、環境汚染や環境事故などの突発的事態の発生に備え、定期的に訓練を実施しています。



フロンガスの漏洩対応訓練
(サンキョーミート(株)有明ミート工場)

詳しくは → P26、36

省エネルギーの取り組み

効率の良いボイラーへの入れ替えや送風機にインバータを設置するなど、省エネルギーの取り組みを進めています。



効率の良いボイラー(西宮工場)

詳しくは → P29

廃棄物の有効利用

豊橋工場では、廃プラスチックを洗浄後、プラスチック原料として出荷し、廃棄物の削減と資源の有効利用に取り組んでいます。



廃プラスチック洗浄機(豊橋工場)

詳しくは → P30

環境委員会「物流・オフィス部会」の設置

環境委員会「物流・オフィス部会」を設置し、物流やオフィスにかかわる環境負荷低減活動を推進しています。



物流・オフィス部会(東京事務所)

詳しくは → P25、33

環境ボランティア体験学習

ボランティアへの参加意識を高めるために、従業員とその家族を対象として、自主プログラムによるボランティア体験活動を定期的に開催しています。



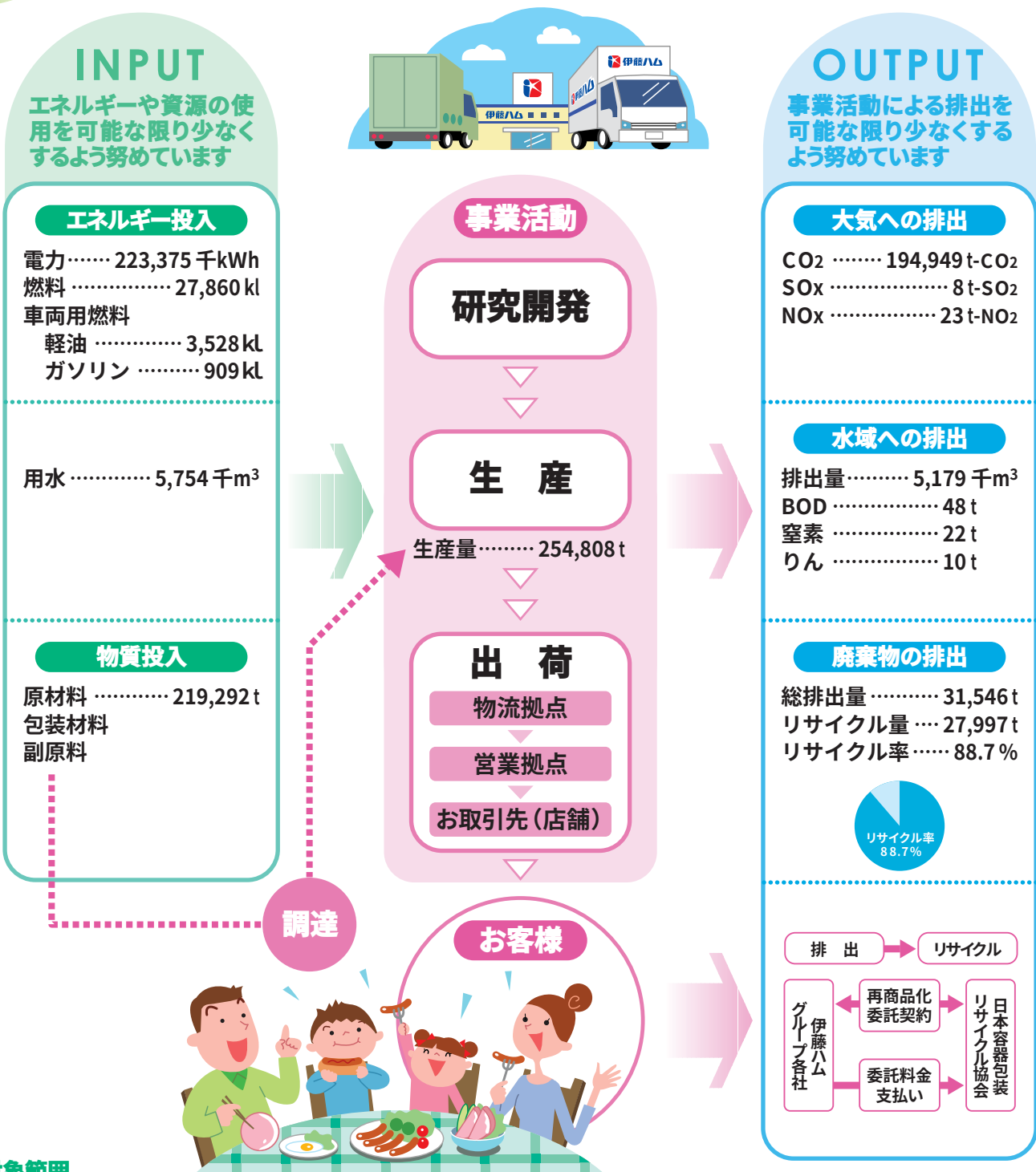
課外授業「こうべ森の学校」



クリーンアップ in 甲子園浜

詳しくは → P35

環境負荷の全体像



対象範囲

- 伊藤ハム(株)
九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所
- 伊藤ハムデイリー(株)
東北、小樽各工場、営業部
- 伊藤ハム食品(株)小矢部工場
- 浅草ハム(株)関東工場
- ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場
- ブルースターフーズ(株)北九州工場
- サンキョーミート(株)
有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部
- IHミートパッカー(株)：関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター
- IHミートソリューション(株)
九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター
- 沖縄フレッシュパック(株)
- ロイヤルデリカ(株)
本社工場、岡山事業所
- (株)菊水
本社工場、サッポロファクトリー
- 伊藤ライフサイエンス(株)
- 伊藤ハム販売(株)
伊藤ハムミート販売東(株)
伊藤ハムミート販売西(株)
伊藤ハム物流(株)

部門別の環境負荷

部門	INPUT	事業活動	OUTPUT
生産部門 (ハム・ソーセージ類、調理加工食品等)	エネルギー投入 電力……157,722 kWh 燃料……22,746 kl 用水……4,467 千m ³ 物質投入 原材料……100,690 t 包装材料 副原料	ハム・ソーセージ類、調理加工食品等の生産 生産量……131,066 t	大気への排出 CO ₂ ……135,167 t-CO ₂ SOx……8 t NOx……23 t 水域への排出 排出量……4,021 千m ³ BOD……48 t 窒素……22 t りん……10 t 廃棄物の排出 総排出量……23,105 t リサイクル量……22,447 t リサイクル率……97.1%
生産部門 (惣菜、麺類等の調理加工食品)	エネルギー投入 電力……13,488 kWh 燃料……3,710 kl 用水……605 千m ³ 物質投入 原材料……18,681 t 包装材料 副原料	惣菜、麺類等の調理加工食品の生産 生産量……34,078 t	大気への排出 CO ₂ ……15,790 t-CO ₂ 水域への排出 排水……544 千m ³ 廃棄物の排出 総排出量……2,838 t リサイクル量……1,989 t リサイクル率……70.0%
食肉部門	エネルギー投入 電力……22,881 kWh 燃料……1,367 kl 用水……639 千m ³ 物質投入 原材料……99,921 t 包装材料 副原料	食肉の処理加工、製造および包装加工等 生産量……89,664 t	大気への排出 CO ₂ ……16,316 t-CO ₂ 水域への排出 排水……575 千m ³ 廃棄物の排出 総排出量……4,587 t リサイクル量……3,454 t リサイクル率……75.2%
物流・営業、オフィス部門	エネルギー投入 電力……29,284 kWh 燃料……37 kl 車両用燃料 軽油……3,528 kl ガソリン……909 kl 用水……43 千m ³	製品の物流販売業務全般	大気への排出 (事業所から排出するもの) CO ₂ ……16,324 t-CO ₂ 大気への排出 (製品の輸送にともなって排出するもの) CO ₂ ……11,352 t-CO ₂ 水域への排出 排水……39 千m ³ 廃棄物の排出 総排出量……1,016 t リサイクル量……107 t リサイクル率……10.5%

対象範囲

- 【生産部門(ハム・ソーセージ類、調理加工食品等)】
 - 伊藤ハム(株)：九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場
 - 伊藤ハムデイリー(株)：東北、小樽各工場
 - 伊藤ハム食品(株)小矢部工場
 - 浅草ハム(株)関東工場
 - 伊藤ライフサイエンス(株)四日市工場
 - ブルースターフーズ(株)北九州工場
- 【生産部門(惣菜、麺類等の調理加工食品)】
 - ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所
 - (株)菊水本社工場、サッポロファクトリー
- 【食肉部門】
 - サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部
 - IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター
 - IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター
 - 沖縄フレッシュパック(株)
- 【物流・営業、オフィス部門】
 - 伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所
 - 伊藤ハムデイリー(株)営業部
 - 伊藤ライフサイエンス(株)
 - 伊藤ハム販売(株)
 - 伊藤ハムミート販売東(株)
 - 伊藤ハムミート販売西(株)
 - 伊藤ハム物流(株)

第3次中期環境目標の取り組み結果と自己評価

2006年度を基準年度とし、2009年度を目標年度とする「第3次中期環境目標」を策定し、環境活動を推進しています。

「第3次中期環境目標」は、基準年度に対して、総エネルギー、用水、廃棄物排出量、二酸化炭素排出量を生産原単位で毎年度1%ずつ、3年後の2009年度には

3%削減するとともに、リサイクル率、グリーン購入率は毎年度100%達成を目標としています。

1年目である2007年度は、効率の良いボイラーへの入れ替えや冷凍・冷蔵設備で使用するデフロスト水の有効利用、廃プラスチックの資源化の促進などを実施し、次のとおりの結果となりました。

【第3次中期環境目標】

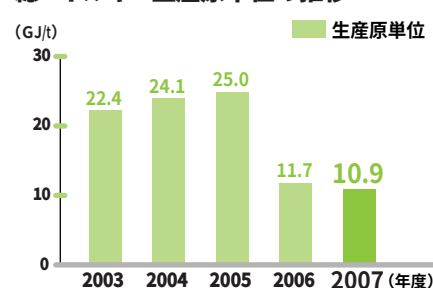
項 目		指 標	基準年度 (2006年度)	2007年度目標値		2007年度結果		評価
				数値	増減	数値	増減	
1) 省エネルギー、省資源の推進		・総エネルギー使用量 (GJ/t)	11.7	11.6	▲1%	10.9	▲6.6%	
		・用水使用量 (m³/t)	22.9	22.7	▲1%	22.4	▲2.1%	
2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進		・廃棄物排出量 (kg/t)	126	124	▲1%	120	▲4.6%	
		・リサイクル率 (%)	89.2	100.0	10.8ポイント	91.4	2.2ポイント	
3) 温室効果ガスの排出削減		・二酸化炭素 (CO ₂) 排出量 (kg-CO ₂ /t)	687	680	▲1%	656	▲4.3%	
4) グリーン購入の推進	金額ベース	・事務用品のグリーン購入率 (%)	93.8	100.0	6.2ポイント	94.2	0.4ポイント	
	数量ベース	・事務機器のグリーン購入率 (%)	98.0	100.0	2ポイント	100.0	2ポイント	
5) 環境管理体制の充実		・グループ会社のISO14001認証取得推進 ・環境監査の継続実施						

※1)～3)は生産原単位 ※総エネルギー:熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気) 5)は単年度目標は設定していません。継続して推進、実施します。

1. 省エネルギー、省資源の推進

総エネルギー生産原単位は**6.6%**減少しました。

総エネルギー生産原単位の推移

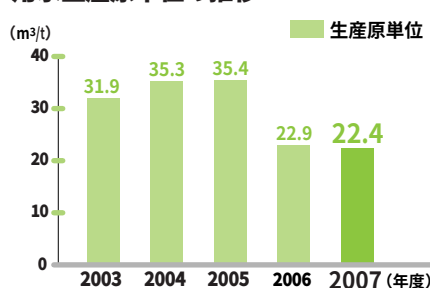


自己評価



用水生産原単位は**2.1%**減少しました。

用水生産原単位の推移



自己評価



対象範囲 (1. 2. 3)

【2006～2007年度】 2006年度より対象範囲を広げました。

- 伊藤ハム(株) 九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場
- 伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場
- 伊藤ハム食品(株) 小矢部工場
- 浅草ハム(株) 関東工場
- ハーバーデリカテッセン(株) 四日市工場
- ブルースターフーズ(株) 北九州工場
- サンキューミート(株) 有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部
- IHミートパッカー(株) 関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター
- IHミートソリューション(株) 九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各パックセンター
- 沖縄フレッシュパック(株)
- ロイヤルデリカ(株) 本社工場、岡山事業所
- (株) 菊水本社工場、サッポロファクトリー

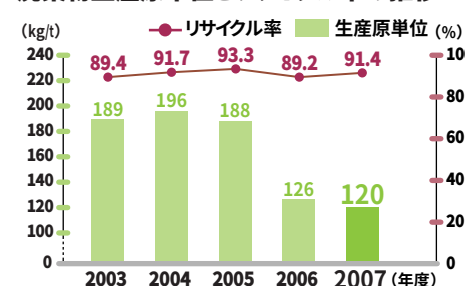
【2003～2005年度】

- 伊藤ハム(株) 九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場
- 伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場
- 伊藤ハム食品(株) 小矢部工場

2. 廃棄物の削減とリサイクルの推進

廃棄物生産原単位は**4.6%**削減。
リサイクル率は**2.2**ポイント高めました。

廃棄物生産原単位とリサイクル率の推移



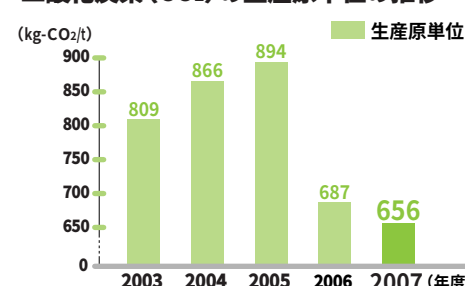
自己評価



3. 温室効果ガスの排出削減

二酸化炭素 (CO₂) 生産原単位は**4.3%**削減しました。

二酸化炭素 (CO₂) の生産原単位の推移



自己評価

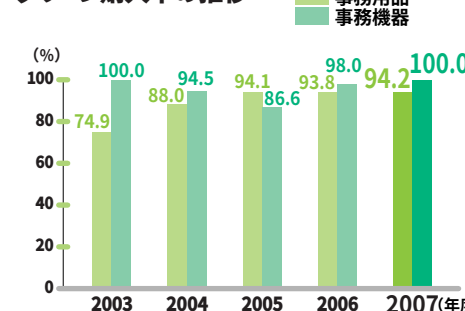


*2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条(平成18年3月24日一部改正)」で定められた排出係数に基づいて算出しました。電気の使用に伴う排出係数が高くなっています。

4. グリーン購入の推進

事務用品のグリーン購入率を**0.4**ポイント高めました。事務機器は**2**ポイント高めました。

グリーン購入率の推移



自己評価



5. 環境管理体制の充実

環境監査の対象事業所数を増やし、監査を実施しました。問題点の早期発見、早期是正に取り組んでいます。

項 目	2007年度の結果
ISO14001	認証取得の増減はありません。
環境監査	35事業所で実施(2006年度は8事業所)

自己評価



2007年度の実績が目標値の100%以上でした。



2007年度の実績値が目標値を下回りましたが、基準年度より改善されました。



2007年度の実績が基準年度を下回りました。継続して、より一層取り組みを進めます。

対象範囲 (4)

【2007年度】 2007年度より対象範囲を広げました。

- 伊藤ハム(株) 本社事務所、東京事務所、九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場
- 伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場
- 伊藤ハム食品(株) 小矢部工場、浅草ハム(株) 関東工場
- ハーバーデリカテッセン(株) 四日市工場
- ブルースターフーズ(株) 北九州工場

【2003～2006年度】

- 伊藤ハム(株) 本社事務所、東京事務所、九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場
- 伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場
- 伊藤ハム食品(株) 小矢部工場

マネジメント

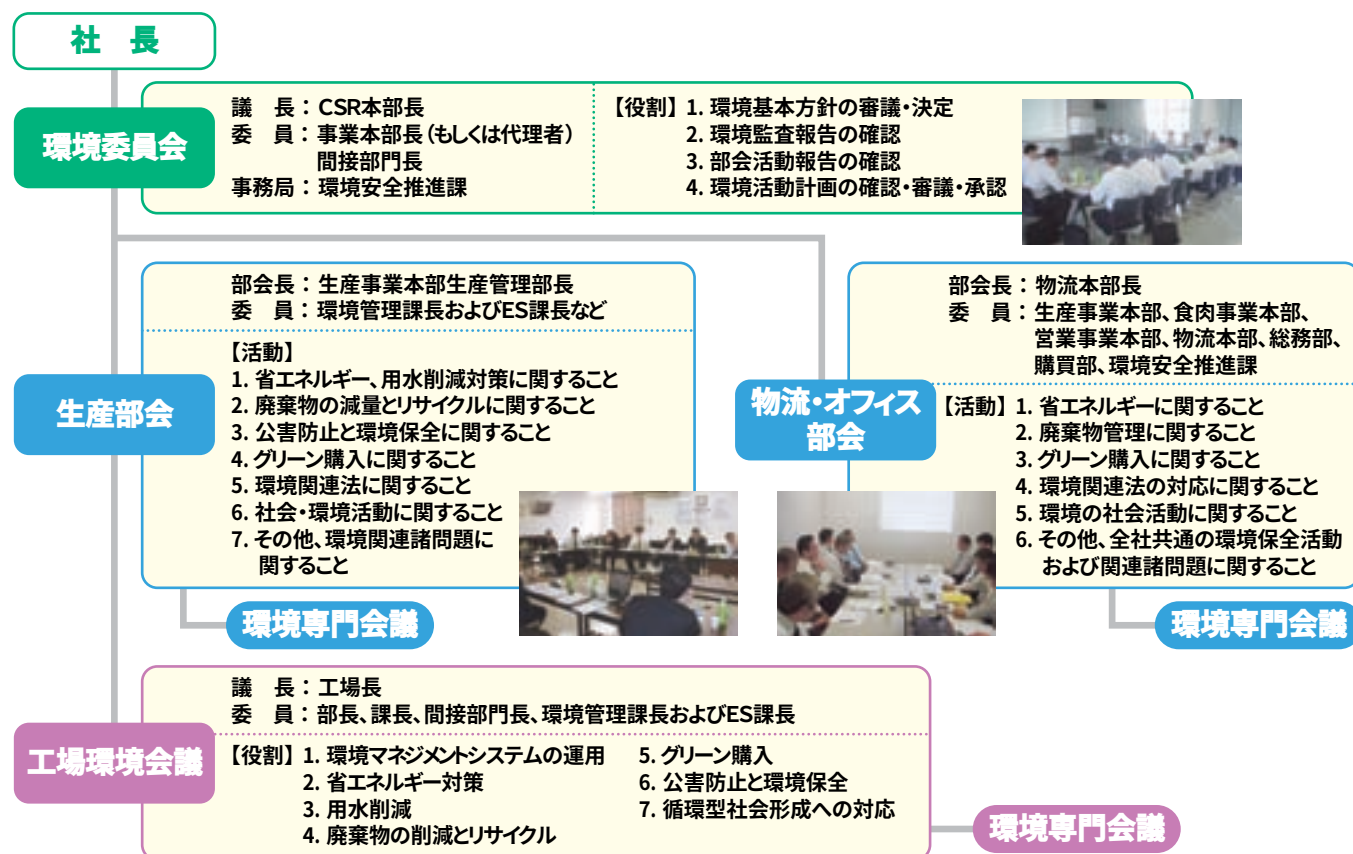
環境保全活動を継続的かつ効果的に進め、持続可能な社会の構築に貢献し、環境汚染や事故の未然防止、

コンプライアンスを徹底、強化するために、環境マネジメントシステムを構築し、運用しています。

環境マネジメントの推進組織

環境マネジメントを推進し、資源やエネルギー、廃棄物問題などに対して、迅速かつ円滑に対応できるような環境管理体制を構築しています。環境基本方針や目標設定などの全社的な事項は「環境委員会」で審議・

決定しています。2007年度は、物流・オフィス部門において、組織的に環境保全活動を推進するために「物流・オフィス部会」を設置しました。



環境監査の実施

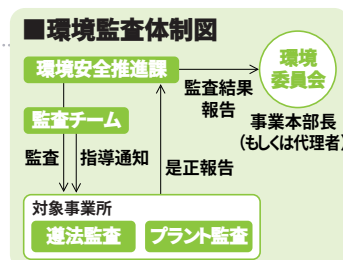
環境汚染や環境事故を防止し、環境保全活動をレベルアップさせるために、事業所内で実施する内部環境監査のほかに、CSR本部環境安全推進課と工場環境管理責任者などで構成する環境監査チームが、年度の計画に基づいて主要事業所の監査を実施しています。2007年度は、従来実施していた伊藤ハムグループの主要生産工場などのほか、食肉部門のミートセンターやパックセンター、営業所の一部も監査の対象として、合計35事業所の監査を実施しました。

監査項目

環境関連法遵守状況、公害防止管理、廃棄物管理、化学物質管理、環境パフォーマンス管理など

監査結果

廃棄物の管理や環境関連施設の届出事項に不備がありましたが、すべて是正しました。



ISO14001認証取得

環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的な改善を実施するために、国際規格であるISO14001を認証取得しています。



ISO14001サーベランス審査（西宮工場）

認証取得事業所一覧 → P36

グリーン購入

伊藤ハムグループ「グリーン購入基本方針」、「グリーン購入ガイドライン」を制定し、省エネルギー・省資源など、環境に配慮した物品の優先的な購入に継続して取り組んでいます。

グリーン購入一覧 → P38

関係法規および法の遵守

事業活動にかかわる環境関連法や各地域での環境保全協定などの遵守はもちろん、事業所ごとに規制値より厳しい自主基準値を設けて、自主基準値を超過しないよう管理することで、規制値からの逸脱を防止しています。

さらにCSR本部環境安全推進課などによる「環境監査」を実施し、法令の遵守に万全を期しています。

伊藤ハムグループの事業所に適用される環境関連法の主なものには次のようなものがあります。

- 大気汚染防止法
- 水質汚濁防止法
- 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）
- 食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）
- 資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）
- 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）
- 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律（フロン回収破壊法）
- 特定の化学物質の環境への排出量等の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）
- エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネルギー法）
- 地球温暖化対策の推進に関する法律（地球温暖化対策推進法）
- 労働安全衛生法
- 自治体との環境保全協定 など

環境管理へのお問い合わせ

2007年度は次のようなお問い合わせをいただきました。お問い合わせに対してはその都度、迅速に対応しています。対応策実施後、効果を確認し、先様に報告しご了解をいただいています。

	内容	対応策
騒音について	工場の方から金属音がする。	加圧ポンプのモーターが故障していたため、金属音が発生していました。モーターを交換しました。
	工場から夜間に騒音がする。搬入するトラックの音がうるさい。	工場からの騒音は、屋上設置のクーリングタワーの回転音と判明しました。クーリングタワーのベアリングを交換しました。 トラックの音は工場入り口（敷地外市道部分）で後輪泥除けが地面に擦れる音と推測し、市に相談したところ、市が路面改修を実施しました。
悪臭について	工場からの臭気が気になる。	廃水処理設備において、汚泥かき寄せ装置のかき寄せが不完全であったため、臭気が発生していました。かき寄せ装置の部品を交換しました。

緊急時の対応策

事業所の管理範囲外や敷地外への環境汚染や事故などの突発的事態を想定し、影響の拡散を防ぎ汚染を最小限に抑え、早期に修復するために、環境マネジメントシステムの緊急時の処置手順に沿って、定期的に訓練を実施しています。万一事故が発生したときには、社内間での連絡と地域住民、行政機関への連絡を円滑に行うため、「環境関連の緊急時連絡システム」を運用しています。

緊急時の対応訓練一覧 → P36



廃油の漏洩対応訓練（東京工場）



消火訓練（サンキョーミート（株）霧島ミート工場）

環境会計

2001年度より主要生産工場の環境保全に投入したコスト、投入コストにともなう環境保全効果を集計し、環

境経営に利用。前期との比較を容易にするため、前期実績と当期実績および増減値を記載しています。

2007年度環境会計の分析

冷凍設備の更新などの省エネルギー対策が進み投資が一巡したこと、公害防止対策が進み新たな投資が不要となったことなどにより、投資額が減少しました。事業所内の管理面においても設備が充実し、公害発生リスクが軽減されたために維持経費が減少しました。

上・下流コストでは、容器包装リサイクル法のリサイク

ル委託料が増加しました。

二酸化炭素排出量については、発電設備を撤去したために、重油燃料の消費が減少し排出量の削減につながりました。省エネルギー対策、二酸化炭素排出量削減については、今後も内容を精査しながら対策を進め効果的な投資を行います。

【環境保全コスト】

(単位:千円)

分類	主な取り組み内容	投資額			費用額		
		前期	当期	増減	前期	当期	増減
事業エリア内コスト		197,626	59,469	▲ 138,157	992,774	729,960	▲ 262,814
公害防止コスト	環境関連施設の改善、維持管理	64,254	25,380	▲ 38,874	604,731	416,914	▲ 187,817
地球環境保全コスト	省エネルギー設備の設置、対策費用	125,307	30,884	▲ 94,423	72,158	17,521	▲ 54,637
資源循環コスト	廃棄物のリサイクルおよび処理処分費用	8,065	3,205	▲ 4,860	315,885	295,525	▲ 20,360
上・下流コスト	容器包装リサイクル法の再商品化委託料	0	0	0	258,425	440,021	181,596
管理活動コスト	EMSの構築、環境保全に係る人件費等	0	0	0	74,726	83,501	8,775
研究開発コスト		0	0	0	0	0	0
社会活動コスト	緑化・その他環境活動費用	0	0	0	13,416	264	▲ 13,152
環境損傷コスト	燃料使用にともなう汚染賦課金	0	0	0	2,846	2,799	▲ 47
合計		197,626	59,469	▲ 138,157	1,342,187	1,256,545	▲ 85,642

【環境保全効果】

効果の内容	環境パフォーマンス指標(単位)	前期	当期	原単位調整効果
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量(GJ)	2,306,388	2,310,320	51,421
	電力エネルギー投入量(GJ)	1,252,247	1,451,666	▲ 169,365
	その他燃料投入量(GJ)	1,054,141	858,654	220,786
	用水の投入量(千m³)	4,412	4,367	151
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量(t-CO₂)	133,551	131,173	5,583
	廃棄物総排出量(t)	22,597	22,549	590
	廃棄物最終処分量(t)	9	2	7
	総排水量(千m³)	3,971	3,930	136
	BOD排出量(t)	24	37	▲ 12
	SOx排出量(t)	15	8	7
その他	容器包装使用量(t)	6,720	6,936	▲ 55

※指標の値 原単位調整効果：生産原単位を加味した削減効果

【前期投入量(排出量)×(当期生産量/前期生産量)－当期投入量(排出量)】

※当期生産量/前期生産量=1.024 ※エネルギー投入量は、購入電力、燃料、購入熱(蒸気)を熱量換算した値(GJ)

【環境保全対策にともなう経済効果】

(単位:千円)

効果の内容	総金額	原単位調整金額
収益		
廃棄物の有価売却による収益	36,203	▲ 10,594
費用削減		
省エネルギーによるエネルギー費の削減(電力・燃料・購入蒸気)	372,645	339,451
用水に係る費用の削減	▲ 10,479	11,515
廃棄物処理費の削減	▲ 25,581	9,632

※指標の値 収益：当期収益

費用削減：前期に対する費用削減額【前期費用－当期費用】

原単位調整金額：生産原単位を加味した収益【前期収益×(当期生産量/前期生産量)－当期収益】

費用削減・生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×(当期生産量/前期生産量)－当期費用】

集計方法

1.投資額および減価償却費は、100%環境目的のもののほか、環境改善機能を有する生産設備については按分集計しています。

2.環境保全効果については原単位調整効果、経済効果については、効果の総金額と原単位調整金額の両方で集計しました。

3.公表フォーマットは「環境会計ガイドライン(2005年度版)」に沿っています。

2007年度の集計結果

集計期間：2007年4月1日
～2008年3月31日

集計範囲：伊藤ハム株式会社

九州工場、神戸工場、
六甲工場、西宮工場、
豊橋工場、東京工場、
船橋工場

伊藤ハムデリー株式会社
(東北工場、小樽工場)

伊藤ハム食品株式会社
(小矢部工場)

環境保全活動の沿革

年月

弊社の主な取り組み内容

- 1965年 廃水処理設備の導入開始
- 1973年 都市ガス燃料ボイラーの導入開始
- 1991年 生産各工場に「環境管理室」を設置
- 1993年 生産事業本部に「環境安全担当」を設置
- 1994年 大型ボイラーから小型ボイラーに更新し環境負荷を低減
- 1998年 営業車輛に天然ガス(CNG)自動車の導入開始(業界初)
・「環境担当役員」を選任、「環境安全推進室」を設置
・全社的な環境活動推進組織「環境委員会」を設置
・「環境委員会・生産部会」「工場環境会議」を設置
- 1999年 環境基本方針を制定
・東京工場が廃棄物計量システムを導入
- 2000年 西宮工場、豊橋工場、東京工場がISO14001を認証取得
・オーストラリアのロックデールビーフ社がISO14001を認証取得
・環境監査実施基準を策定し、全社的に環境監査を開始
・西宮工場、豊橋工場が廃棄物計量システムを導入
・環境報告書を初めて発行
・ホームページの「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設
- 2001年 ニュージーランドのファイブスタービーフ社がISO14001を認証取得
・六甲工場がISO14001を認証取得
・中期経営計画において環境活動3か年計画を策定
・グリーン購入基本方針制定
・九州工場が廃棄物計量システムを導入
・生産工場を対象に環境会計を導入
・西宮工場が都市ガスによるコージェネシステム稼働
- 2002年 九州工場、サンキョーミート(株)有明ミート工場・藤栄ファーム事業部・霧島ミート工場がISO14001を認証取得
・環境基本方針の「環境行動指針」を一部改定
・環境推進組織「生産部会」の下に「省エネ対策専門会議」を設置
・九州工場、豊橋工場、伊藤ハムデリー(株)東北工場でコージェネシステム稼働
・コンプライアンス・ハンドブックを従業員に配布
・日本食糧新聞社の「環境資源協力賞」を受賞
・社会貢献活動理念と活動方針を策定
- 2003年 「社会貢献推進期間」を設定し、全国の事業所で社会貢献活動の取り組みを開始
・船橋工場がISO14001認証取得
・「クリーンアップin甲子園浜」(初めての自主企画)を実施
・こうべ市民演習林の名称が「こうべ森の学校」と決定し、本格的な森林保護活動がスタート
- 2004年 デイリー物流(株)(=現・伊藤ハム物流(株))、伊藤ハムデリー(株)東北工場がISO14001認証取得
・全国農林水産関連企業環境対策協議会より感謝状を受賞
・平木小学校(西宮市)において環境学習「出前授業」を初めて実施
- 2005年 自然保護をテーマにした「食とeco」わくわく探検隊を初めて実施(春・秋)
- 2006年 伊藤ハムデリー(株)小樽工場がISO14001を認証取得(4月)
・社会貢献活動「環境学習都市にのみやパートナーシッププログラム事業」(「食とeco」わくわく探検隊と「クリーンアップin甲子園浜」の2つのイベント)に
対し西宮市長より感謝状を受賞
・伊藤ハム食品(株)小矢部工場がISO14001を認証取得
・キッズプロジェクト「ハム工場を学ぼう」を初めて実施
・九州工場、豊橋工場、伊藤ハムデリー(株)東北工場の重油を燃料とするコージェネシステムを廃止
- 2007年 「環境委員会物流・オフィス部会」を設置



環境負荷低減の取り組み

伊藤ハムグループでは、電力・燃料・用水の使用量や温室効果ガス、廃棄物の排出量を削減するために、さまざまな取り組みを実践しています。2007年度に実施し

た各部門の主な環境負荷低減の取り組みは次のとおりです。

生産部門

省エネルギーの取り組み (電力、燃料使用量の削減対策)

- 効率の良いボイラーを導入するとともに、既存の制御方式を見直し、適正台数で効率良く運転できる台数制御方式に改善しました。
- 断熱効果の高い塗料で工場の屋根を塗装しました(前年度から継続して実施)。
- 送風機や送水ポンプ類へインバータを設置しました。
- 蒸気ボイラーの連続ブローに廃熱回収装置を設置し、給水の加温に利用しました。
- 高圧変圧器や動力機械の効率的な運用を進め、未使用時の待機電力を削減しました。



効率の良いボイラー(西宮工場)



廃熱回収装置(東北工場)

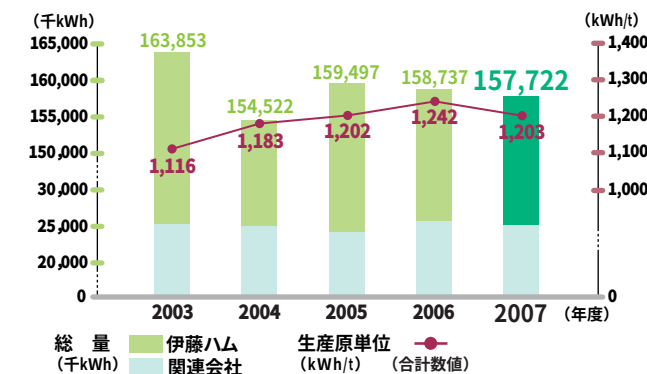
用水使用量の削減対策

- 冷凍・冷蔵設備のデフロスト水をトイレの洗浄水として再利用する設備を増設しました。
- 包装機の真空ポンプに電磁弁を取り付け、稼動していないときには冷却水が止まるようにしました。

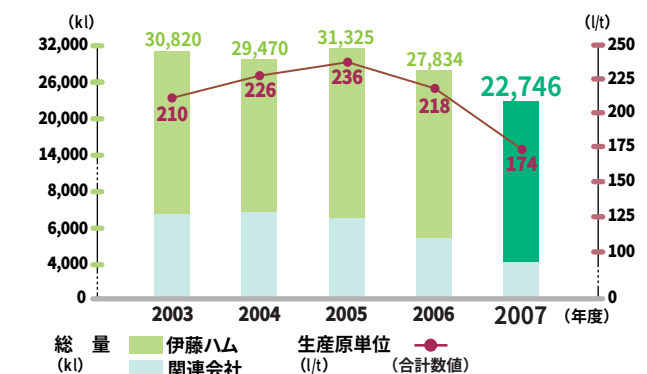


デフロスト水貯水槽(豊橋工場)

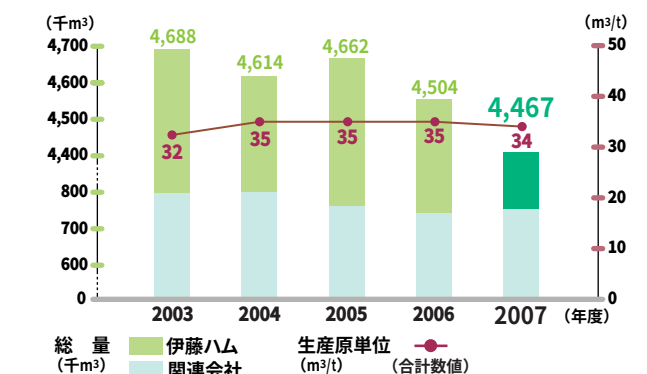
電力使用量の推移



燃料使用量の推移



用水使用量の推移



廃棄物の削減と有効利用

- 加熱ラインから発生する油脂を回収し、資源として有効利用しました。
- 廃プラスチック洗浄機を設置し、原料由来の包材などを洗浄し、プラスチックの原料として出荷しました。



廃プラスチック洗浄機(豊橋工場)

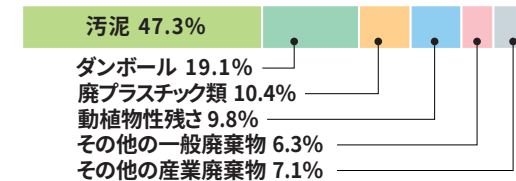


洗浄後の廃プラスチック

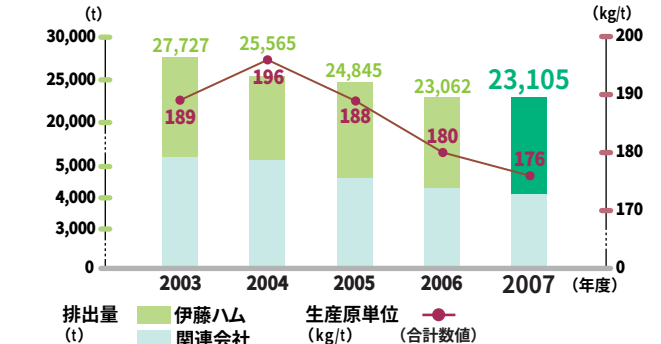


廃棄物の排出量の割合

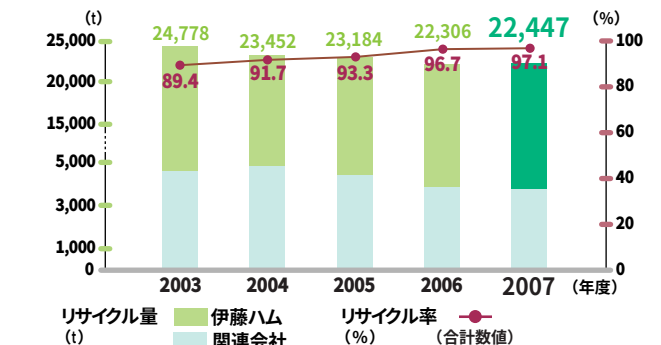
生産工場から排出される廃棄物の割合は以下のとおりです。



廃棄物の排出量の推移



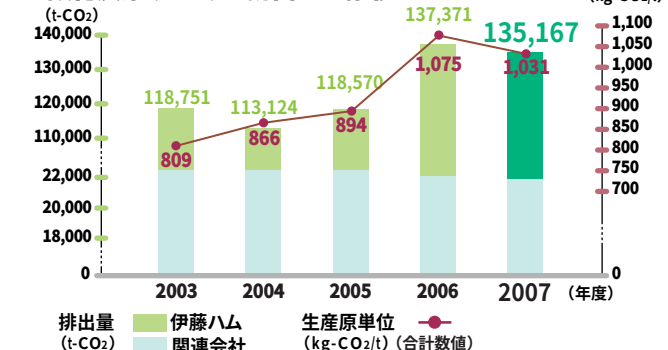
リサイクル量とリサイクル率の推移



温室効果ガスや水質汚濁物質の排出削減

- 省エネルギー対策を実践し、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を削減するとともに、排出が少ない燃料への転換を検討しています。
- 排気ガスや排水は、基準値超過などの異常を早期に発見し迅速に是正するために、規制値より厳しい自主基準値を定めて管理しています。

二酸化炭素(CO₂)の排出量の推移



*2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条(平成18年3月24日一部改正)」で定められた排出係数に基づいて算出しました。電気の使用に関する排出係数が高くなっています。

対象範囲(ハム・ソーセージ類、調理加工食品等の生産工場)

【2006～2007年度】

- 伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場
- 伊藤ハムデパート(株)東北、小樽各工場
- 伊藤ハム食品(株)小矢部工場

- 浅草ハム(株)関東工場
- ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場
- ブルースターフーズ(株)北九州工場

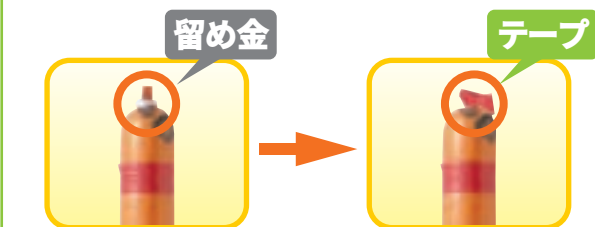
【2003～2005年度】

- 伊藤ハム(株)九州、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場
- 伊藤ハムデパート(株)東北、小樽各工場
- 伊藤ハム食品(株)小矢部工場

80th Anniversary

ポールウイナーにやさしさクリップ

創業80周年を迎えるのを機に「ロイヤルポールウイナー」の“留め金”を、環境への配慮(廃棄するときの分別の煩雑さ解消)や安全性を向上させるために、これまで使用していたアルミから内装と同材質の“やさしさクリップ”(テープ)に変更しました。





商品の環境負荷低減

- 石油を原料としたプラスチック製包装材の削減を進めています。「さわやかパックシリーズ」、「朝のフレッシュパックシリーズ」、その他製品の包装材の薄膜化を実施しました。包装材を薄膜化することにより、二酸化炭素の削減や消費後の廃棄物の削減に努めています。



さわやかパックシリーズ

朝のフレッシュパックシリーズ

食肉部門



省エネルギーの取り組み (電力、燃料使用量の削減対策)

- 冷却する必要がない時は、冷却庫の温度を高く設定するようにしました。
- 使用していない動力機械や作業をしていない作業場の照明のスイッチをこまめに切るようにしました。



用水使用量の削減対策

- 清掃時には、必要以上に水を流すことがないように、蛇口の開閉をこまめに調整しました。



廃棄物の削減と有効利用

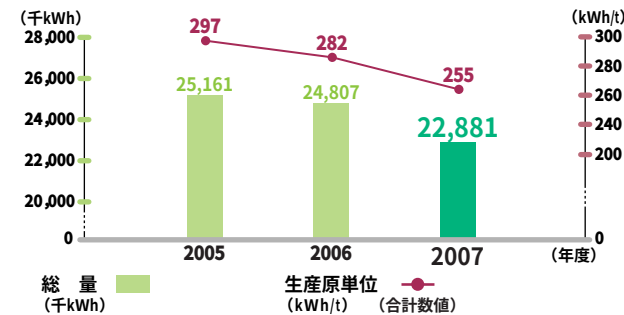
- 梱包の作業ミス低減など廃棄物の発生を抑制するとともに、廃棄物の分別を徹底し、リサイクル化を進めました。
- 養豚事業場では、糞尿をプラントで発酵させて肥料を製造・販売しました。



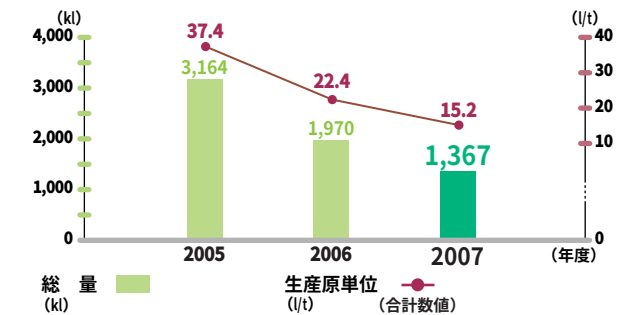
コンポスト設備

マニアスプレッター
購入先から指定された畑地に
直接肥料を散布します

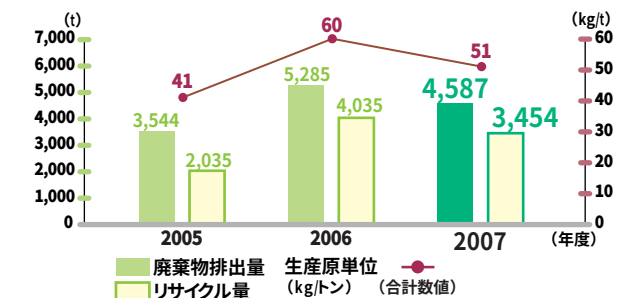
電力使用量の推移



燃料使用量の推移



廃棄物の排出量の推移



対象範囲

- サンキョーミート (株) 有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部
- IIミートパッカー (株) 関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター
- IIミートソリューション (株) 九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター
- 沖縄フレッシュパック (株)



温室効果ガスや水質汚濁物質の排出削減

- 排気ガスや排水は規制値より厳しい自主基準値を定めて管理し、異常の早期発見、規制値超過の未然防止を強化しています。
- 浄化槽処理水タンクからの汚水漏れなどの緊急事態に備え、汚水の流出を防止する堰を設置しました。

汚水の流出を防止する堰
(サンキョーミート (株) 霧島ミート工場)

物流・営業部門



省エネルギー、二酸化炭素排出量削減の取り組み

- 積み合わせ輸送・混載便の利用、輸送量に応じた適正車種の選択など、輸送効率を向上させました。
- 保有車両について、低公害車 (低燃費、低排出ガス自動車やハイブリッド車など) への転換を進めました。
- 製品を効率的に配送するために、物流拠点の整備を進めました。
- ドライバーの運転マナーおよびエコドライブに対する意識の向上などを目的として配送パートナー研修を実施しました。
- 「エコドライブ推進月間」である11月に、「エコドライブ10のすすめ」ポスターやエコドライブに関する情報を発信し、エコドライブの普及、実践を強化しました。
- エコドライブの実践を盛り込んだ「年末交通事故&マナークレームゼロ」運動を実施しました。



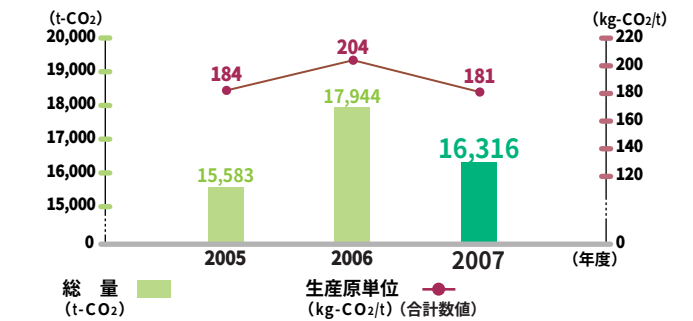
「エコドライブ10のすすめ」ポスター



廃棄物の削減対策

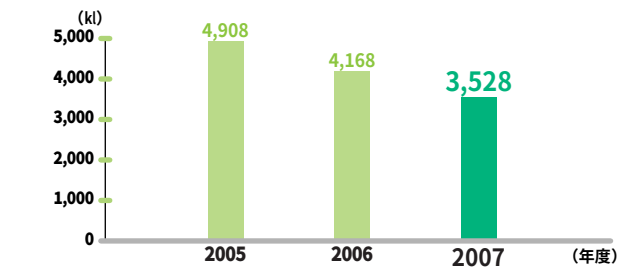
- 過剰在庫とならないように適正量の発注を心掛け、売れ残りなどの食品廃棄物の発生抑制に努めています。

二酸化炭素 (CO₂) の排出量の推移

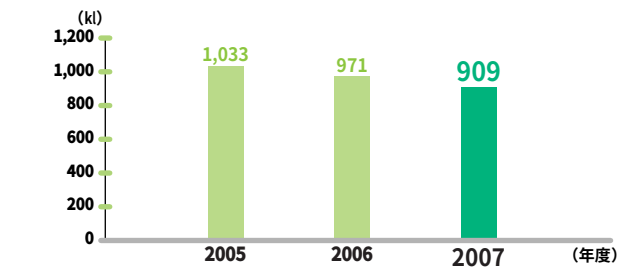


*2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条 (平成18年3月24日一部改正)」で定められた排出係数に基づいて算出しました。電気の使用に関する排出係数が高くなっています。

車両燃料 (軽油) 使用量の推移



車両燃料 (ガソリン) 使用量の推移



配送パートナー研修風景



ハイブリッド車 (本社)

対象範囲

- 伊藤ハム (株) 本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所
- 伊藤ハムディーリー (株) 営業部
- 伊藤ライフサイエンス (株)
- 伊藤ハム販売 (株)
- 伊藤ハムミート販売東 (株)
- 伊藤ハムミート販売西 (株)
- 伊藤ハム物流 (株)

オフィス



省エネルギー、二酸化炭素排出量削減の取り組み

- 省エネタイプの蛍光灯への切り替えを進めるとともに、こまめな消灯、点灯を実施しています。
- 電力を使用するパソコン、コピー機などのOA機器について、省エネタイプの製品を優先的に購入するグリーン購入に取り組んでいます。



用水使用量の削減対策

- トイレに擬音装置を取り付けました。



コピー用紙の使用量削減対策

- 裏面の利用、両面印刷や縮小レイアウト印刷など、コピー機の特長機能を有効活用しました。
- スキャナーを使ってデータを電子化し、データの印刷を控えました。



グリーン購入

- 文具、事務用紙、事務機器類のグリーン購入に取り組んでいます。



廃棄物のリサイクル

- 紙、プラスチック、ペットボトルなど、廃棄物の種類ごとに分別箱を設置し、リサイクルに支障をきたさないように分別排出しています。

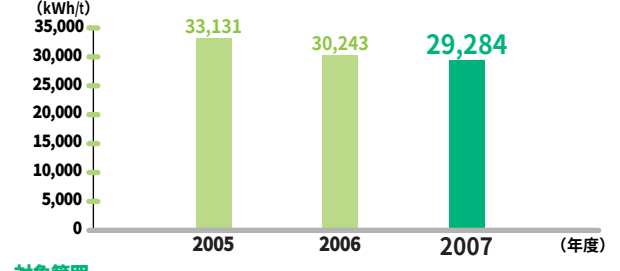


環境委員会「物流・オフィス部会」を設置

輸送に係る省エネルギー、オフィスにおける省エネルギー、省資源対策を組織的に推進するために環境委員会「物流・オフィス部会」を設置しました。部会で審議・決定された事項は、本部機構を通じて各事業所まで周知しています。



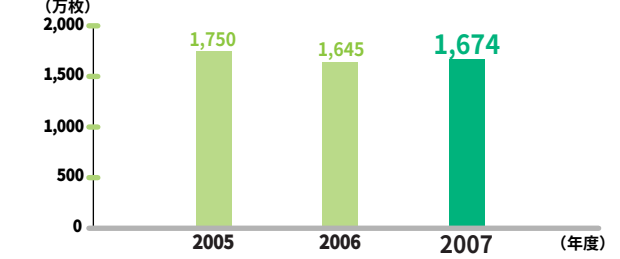
電力使用量の推移



対象範囲

- 伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所
- 伊藤ハム販売(株)
- 伊藤ハムミート販売東(株)
- 伊藤ハムミート販売西(株)
- 伊藤ハムデリー(株)営業部
- 伊藤ハム物流(株)
- 伊藤ライフサイエンス(株)

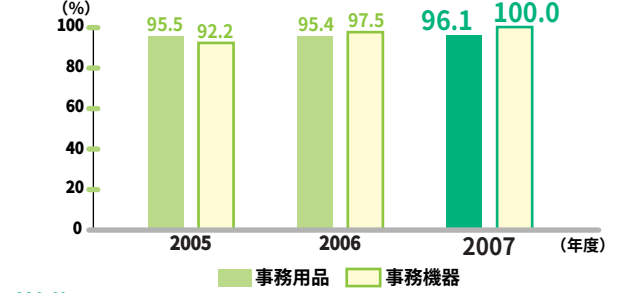
コピー用紙使用量の推移



対象範囲

- 伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所

グリーン購入率の推移



対象範囲

- 伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所

「環境情報」



具体的な取り組みとして、輸送エネルギー使用状況の進捗管理、運行状況管理のシステム化検討、オフィスでできる温暖化防止対策例などの情報発信、コンピュータ連続帳票用紙のグリーン購入品への切り替えなどを実施しました。今後も、活発な議論を行い、物流・オフィスにかかわる環境負荷の低減を進めていきます。

環境情報開示

伊藤ハムは、環境問題への取り組み姿勢や環境保全活動について、さまざまな機会を通じ、社内外へ情報発信することは、企業の果たすべき責任であると考えています。

社会・環境報告書の発行

環境保全への取り組みをご理解いただくために、2000年から社会・環境報告書を発行しています。主な配布先は、お客様、企業、行政機関、学校、学生、従業員などです。

社会・環境報告書は来社されたお客様が自由に閲覧、お持ち帰りいただけるようにしています。弊社ホームページでも開示しています。

※2001年～2004年は環境報告書として発行、2005年～2007年は社会・環境報告書として発行、2008年よりCSR報告書として発行



商品展示会

毎年1回、商品展示会を開催しています。その際、お得意先や従業員とその家族に伊藤ハムの環境保全活動、社会活動に関する理解を深めていただくために、環境・社会活動に関する取り組みを紹介しています。



います。社会・環境報告書やホームページなどを通じて、積極的に情報を開示しています。

ホームページ

ホームページ上に「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開示し、幅広く環境保全活動について情報を開示しています。社会・環境報告書のほか、エコピックスによる最新の環境活動の紹介や社会・環境報告書の請求もできるようになっています。また、お客様からのご意見やご感想などをお寄せいただくために、専用のメールアドレスを設けています。



ホームページ
<http://www.itoham.co.jp>
専用メール
eco@itoham.co.jp

環境フェアなどへの出展

伊藤ハムの事業所が所在する自治体などで開催される環境フェアなどのイベントに出展し、環境保全活動や社会活動に関する情報を開示しています。



従業員教育・地域とのコミュニケーション

従業員一人ひとりの環境保全意識を高め、「地球にやさしい」企業風土を醸成するために、社内外の環境教育と社内啓発活動を実施しています。また、ボランティ

ア活動を通じて環境のことを学ぶ、従業員と家族向けの環境ボランティア体験学習を実施しています。

環境教育

- 新入社員の環境教育
- 環境マネジメントシステム教育
- 工場における一般教育・専門教育
- 営業部門におけるエコドライブ教育
- 社内報「YAKUDO! (躍動)」に環境関連記事を掲載
- 職場に「環境情報掲示板」を設置
- 社外の環境教育・セミナーなど



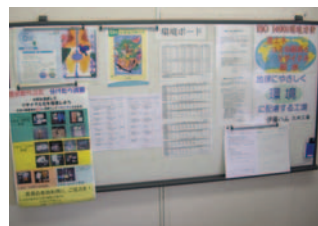
新入社員の環境教育



社内報「YAKUDO!」



環境情報掲示板
〈伊藤ハムデリー(株)東北工場〉



環境情報掲示板
〈九州工場〉

地域との交流

NPO法人「子ども環境活動支援協会」(西宮市)の「環境学習支援プロジェクト」に参加し、環境学習「出前授業」を行いました。また、「エコライフめぐる推進協会」(東京都目黒区)が主催する環境講座「エコライフの基礎知識～基本のRe」の講師を務めました。



出前授業(武蔵川女子大学附属高校)



環境講座(目黒区平町エコプラザ)

環境ボランティア体験学習

- 課外授業「こうべ森の学校」



- クリーンアップ in 甲子園浜



クリーンアップ in 甲子園浜

森も生きて
いるんだね

ずっときれいな
浜でいてほしい



環境情報の開示および共有化

従業員の環境保全に対する意識・関心を高めるために、社内イントラネットを利用して環境に関する情報やデータを開示しています。



社内イントラネットの記事



Eメール

社外の方のご意見

西宮市内公立小学校などでの「食」をテーマとした「環境学習支援プロジェクト」では伊藤ハムさんをはじめ、いろいろな企業の方にご協力をいただいています。授業では、「循環」をテーマに生産・製造加工・販売・回収堆肥化のグループに分かれ、子ども達・先生や保護者の方にお話をいただいています。授業実施後は、学校と家庭と企業が一体になって環境について考える場になったという感想などいただいています。今後も地域に根ざしたまちづくりを進めるうえで、ご協力いただけることを願っています。



子ども環境活動支援協会
事務局 北村 ころろ氏

環境データ

【2007年度 緊急時の対応訓練】

事業所名	訓練の内容	参加者数
伊藤ハム(株)		
九州工場	薬品漏洩事故防止訓練	2
	フロンガスの漏洩対応訓練	6
六甲工場	汚泥・汚水の漏洩対応訓練	6
西宮工場	汚泥・汚水・薬品の漏洩対応訓練	4
	フロンガスの漏洩対応訓練	6
	廃油の漏洩対応訓練	11
豊橋工場	汚水・薬品の漏洩対応訓練	4
	フロンガスの漏洩対応訓練	7
	重油の漏洩対応訓練	7
東京工場	廃油の漏洩対応訓練	2
船橋工場	水道設備停止時の対応訓練	6
	フロンガスの漏洩対応訓練	7
	汚泥・汚水・廃油の漏洩対応訓練	2

事業所名	訓練の内容	参加者数
伊藤ハムデリー(株)		
東北工場	汚泥・汚水・薬品の漏洩対応訓練	3
	フロンガスの漏洩対応訓練	9
	重油の漏洩対応訓練	9
小樽工場	汚水・重油の漏洩対応訓練	2
	フロンガスの漏洩対応訓練	2
伊藤ハム食品(株)		
小矢部工場	重油の漏洩対応訓練	2
サンキョーミート(株)		
有明ミート工場	フロンガスの漏洩対応訓練	8
	消防訓練	50
霧島ミート工場	消防訓練	26
ファーム部	灯油の漏洩対応訓練	4
	消防訓練	17
伊藤ハム物流(株)		
仙台共配センター	消防訓練	90

【ISO14001認証取得事業所】

サイト名	認証機関	登録年月
伊藤ハム(株)	日本環境認証機構(JACO)	2000年 2月
東京工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年 9月
豊橋工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年11月
六甲工場	日本環境認証機構(JACO)	2001年10月
九州工場	日本環境認証機構(JACO)	2002年 2月
船橋工場	日本環境認証機構(JACO)	2003年 5月
伊藤ハムデリー(株)	日本環境認証機構(JACO)	2004年 5月
小樽工場	日本環境認証機構(JACO)	2006年 4月
伊藤ハム食品(株)	日本環境認証機構(JACO)	2006年 8月
サンキョーミート(株)	日本環境認証機構(JACO)	2006年 8月
有明ミート工場	日本環境認証機構(JACO)	2006年 8月
霧島ミート工場	日本環境認証機構(JACO)	2006年 8月
ファーム部	日本環境認証機構(JACO)	2006年 8月
伊藤ハム物流(株)	日本環境認証機構(JACO)	2006年 8月
仙台共配センター	日本環境認証機構(JACO)	2006年 8月
ロックデールビーフ社(オーストラリア)	NCS International Pty Ltd.	2000年 3月
ファイブスタービーフ社(ニュージーランド)	SGS International Certification Services Pty Ltd.	2001年 1月

【ISO22000認証取得事業所】

サイト名	認証機関	登録年月
サンキョーミート(株)	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2005年12月
霧島ミート工場	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2007年 2月
IHミートパッカー(株)	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2006年 3月
宮城ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2007年 2月
東京ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2007年 2月
十和田ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2008年 1月
名古屋ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2008年 3月
IHミートソリューション(株)	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2007年12月
川崎パックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2007年12月
神戸パックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2008年 3月

【エネルギー等使用量の推移】

		合 計				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
電力	総量 (千kWh)	163,853	154,522	159,497	226,552	223,375
燃料※1	総量 (kl)	30,820	29,470	31,325	38,463	32,262
総エネルギー※2	総量 (GJ)	3,285,085	3,147,310	3,317,160	3,216,269	3,083,528
用水	総量 (千m³)	4,688	4,614	4,662	5,732	5,754

		伊 藤 ハ ム				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
電力	総量 (千kWh)	138,204	129,448	135,375	140,156	139,750
燃料※1	総量 (kl)	23,671	22,319	24,526	22,406	18,660
総エネルギー※2	総量 (GJ)	2,471,022	2,331,924	2,537,926	2,034,558	2,043,683
用水	総量 (千m³)	3,878	3,803	3,889	3,774	3,728

		関 連 会 社				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
電力	総量 (千kWh)	25,650	25,073	24,123	86,396	83,625
燃料※1	総量 (kl)	7,149	7,151	6,800	16,057	13,602
総エネルギー※2	総量 (GJ)	814,063	815,386	779,234	1,220,174	1,039,845
用水	総量 (千m³)	810	811	773	1,958	2,026

※1：原油換算 ※2：総エネルギー：熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

対象範囲 (P38「二酸化炭素(CO2)の排出量の推移」共通)

- 【2006～2007年度】 2006年度より対象範囲を広げました。
■ 伊藤ハム(株) 本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所
九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場
■ 伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場、営業部
■ 伊藤ハム食品(株) 小矢部工場
■ 浅草ハム(株) 関東工場
■ ハーバーデリカテッセン(株) 四日市工場
■ ブルースターフーズ(株) 北九州工場
■ サンキューミート(株) 有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部
- IHミートパッカー(株) 関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター
■ IHミートソリューション(株) 九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター
■ 沖縄フレッシュパック(株)
■ ロイヤルデリカ(株) 本社工場、岡山事業所
■ (株) 菊水本社工場、サッポロファクトリー
■ 伊藤ハム販売(株)
- 伊藤ハムミート販売東(株)
■ 伊藤ハムミート販売西(株)
■ 伊藤ハム物流(株)

【2003～2005年度】
■ 伊藤ハム(株) 九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場
■ 伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場
■ 伊藤ハム食品(株) 小矢部工場

【ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場のエネルギー等使用量の推移】

		合 計				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
電力	総量 (千kWh)	163,853	154,522	159,497	158,737	157,722
	生産原単位 (kWh/t)	1,116	1,183	1,202	1,242	1,203
燃料※1	総量 (kl)	30,820	29,470	31,325	27,834	22,746
	生産原単位 (l/t)	210	226	236	218	174
総エネルギー※2	総量 (GJ)	3,285,085	3,147,310	3,317,160	2,369,390	2,376,119
	生産原単位 (GJ/t)	22	24	25	19	18
用水	総量 (千m³)	4,688	4,614	4,662	4,504	4,467
	生産原単位 (m³/t)	32	35	35	35	34

		伊 藤 ハ ム				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
電力	総量 (千kWh)	138,204	129,448	135,375	132,989	132,618
	生産原単位 (kWh/t)	1,085	1,173	1,186	1,242	1,210
燃料※1	総量 (kl)	23,671	22,319	24,526	22,376	18,630
	生産原単位 (l/t)	186	202	215	209	170
総エネルギー※2	総量 (GJ)	2,471,022	2,331,924	2,537,926	1,962,262	1,971,825
	生産原単位 (GJ/t)	19	21	22	18	18
用水	総量 (千m³)	3,878	3,803	3,889	3,758	3,712
	生産原単位 (m³/t)	30	34	34	35	34

		関 連 会 社				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
電力	総量 (千kWh)	25,650	25,073	24,123	25,748	25,104
	生産原単位 (kWh/t)	1,324	1,233	1,303	1,242	1,168
燃料※1	総量 (kl)	7,149	7,151	6,800	5,457	4,116
	生産原単位 (l/t)	369	352	367	263	191
総エネルギー※2	総量 (GJ)	814,063	815,386	779,234	407,129	404,293
	生産原単位 (GJ/t)	42	40	42	20	19
用水	総量 (千m³)	810	811	773	746	755
	生産原単位 (m³/t)	42	40	42	36	35

※1：原油換算 ※2：総エネルギー：熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

対象範囲 (P38「ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場の二酸化炭素(CO2)の排出量の推移」共通)

- 【2006～2007年度】 2006年度より対象範囲を広げました。
■ 伊藤ハム(株) 九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場
■ 伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場
■ 伊藤ハム食品(株) 小矢部工場
- 浅草ハム(株) 関東工場
■ ハーバーデリカテッセン(株) 四日市工場
■ ブルースターフーズ(株) 北九州工場
- 【2003～2005年度】
■ 伊藤ハム(株) 九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場
■ 伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場
■ 伊藤ハム食品(株) 小矢部工場

【二酸化炭素(CO2)の排出量の推移】

		合 計				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
排出量 (t- CO2)		118,751	113,124	118,570	200,377	194,949

		伊 藤 ハ ム				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
排出量 (t- CO2)		95,227	89,534	95,620	111,771	110,361

		関 連 会 社				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
排出量 (t- CO2)		23,525	23,590	22,950	88,606	84,588

【ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場の二酸化炭素(CO2)排出量の推移】

		合 計				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
排出量 (t- CO2)		118,751	113,124	118,570	137,371	135,167
生産原単位 (kg- CO2/t)		809	866	894	1,075	1,031

		伊 藤 ハ ム				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
排出量 (t- CO2)		95,227	89,534	95,620	111,771	110,361
生産原単位 (kg- CO2/t)		748	812	838	1,044	1,007

		関 連 会 社				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
排出量 (t- CO2)		23,525	23,590	22,950	25,600	24,806
生産原単位 (kg- CO2/t)		1,215	1,160	1,239	1,235	1,154

*二酸化炭素については、2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条(平成18年3月24日一部改正)」で定められた排出係数に基づいて算出しました。
電気の使用に伴う排出係数が高くなっています。

【フロンガス(HCFC-22)排出量の推移】

		合 計				
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
HCFC-22		9,200	7,626	4,410	4,765	4,091

対象範囲

- 【2007年度】
■ 伊藤ハム(株) 九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場、
■ 伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場
■ 伊藤ハム食品(株) 小矢部工場
- 浅草ハム(株) 関東工場
■ ハーバーデリカテッセン(株) 四日市工場
■ ブルースターフーズ(株) 北九州工場
- 【2003～2006年度】
■ 伊藤ハム(株) 九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場
■ 伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場
■ 伊藤ハム食品(株) 小矢部工場

【グリーン購入の推移】

対象品目			グリーン購入の割合 (%)				
			2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
事務用品 (金額ベース)	文具類	筆記具、ファイルなど	57.1	93.2	94.4	93.1	95.2
	紙類	コピー用紙、コンピューター用紙など	80.4	86.4	94.1	94.0	93.9
		合計	74.9	88.0	94.1	93.8	94.2
事務機器 (数量ベース)	OA機器類	パソコン、コピー機、ファクシミリなど	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	オフィス家具類	事務用机、椅子、OAテーブルなど	100.0	88.2	77.3	94.3	100.0
		合計	100.0	94.5	86.6	98.0	100.0
その他	照明器具類	ランプ、蛍光灯器具など	56.8	62.4	47.1	64.8	71.2
	制服類	作業着など	97.2	98.5	99.0	98.3	98.2

対象範囲

- 【2007年度】
■ 伊藤ハム(株) 本社事務所、東京事務所、九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場
■ 伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場
■ 伊藤ハム食品(株) 小矢部工場
- 浅草ハム(株) 関東工場
■ ハーバーデリカテッセン(株) 四日市工場
■ ブルースターフーズ(株) 北九州工場
- 【2003～2006年度】
■ 伊藤ハム(株) 本社事務所、東京事務所、九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場
■ 伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場
■ 伊藤ハム食品(株) 小矢部工場

【2007年度 クリーンアップ活動】

名 称	開催地	実施月	参加者数	名 称	開催地	実施月	参加者数
大堀川水辺清掃	千葉県柏市	2007年 4月	6	石狩湾新港地域 秋季クリーン作戦	北海道小樽市	2007年10月	7
ビーチクリーンアップinSUMA	兵庫県神戸市	2007年 4月	48	クリーンアップin甲子園浜	兵庫県西宮市	2007年10月	62
石狩湾新港地域 春季クリーン作戦	北海道小樽市	2007年 4月	10	ふなばし三番瀬クリーンアップ	千葉県船橋市	2007年10月	45
轟木川清掃	佐賀県鳥栖市	2007年 5月	1	大堀川水辺清掃	千葉県柏市	2007年10月	7
ごみゼロ運動	富山県小矢部市	2007年 5月	85	東京ベイ・クリーンアップ大作戦	東京都港区	2007年11月	22
基山町クリーンアップ作戦	佐賀県基山町	2007年 7月	48	捨てちゃい缶バイ!作戦	佐賀県鳥栖市	2008年 1月	7
クリーンアップ石狩新港浜	北海道小樽市	2007年 9月	17	伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン	宮城県栗原市	2008年 3月	42
鳥栖商工団地早朝クリーン作戦	佐賀県鳥栖市	2007年 9月	3	目黒川クリーンアップ大作戦	東京都目黒区	2008年 3月	8
梅田川ふれあいクリーン作戦	愛知県豊橋市	2007年 9月	13	基山町クリーンアップ作戦	佐賀県基山町	2008年 3月	30
ビーチクリーンアップinSUMA	兵庫県神戸市	2007年 9月	29	大堀川水辺清掃	千葉県柏市	2008年 3月	7
伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン	宮城県栗原市	2007年 9月	40				
国道4号線清掃	宮城県栗原市	2007年 9月	250				

その他、事業所周辺の清掃も実施しています。



社会活動、環境保全活動などについてのお問い合わせ先

伊藤ハム株式会社
CSR本部環境安全推進課
〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号
T E L : (0798) 66-1289
F A X : (0798) 66-1302
U R L : <http://www.itoham.co.jp>
E-mail : eco@itoham.co.jp
発行 2008年6月



表紙について

これまでの報告書では、「環境保全」「生物多様性」をテーマに絶滅危惧種をご紹介してきました。今年度から「CSR報告書」となり表紙も一新しました。食品メーカーの原点に立ち、弁当箱をモチーフにして、未来を託す子ども達へ、「食べる」ことの喜びや楽しさ、大切さを伝えていきたいという思いを表現しています。弁当箱の中には、こうべ森の学校や“食とeco”わくわく探検隊などの写真を盛り付けて、弊社のCSR活動の一端をご紹介します。

次回発行予定 2009年6月



「2008年 CSR報告書」アンケート

● ご意見・ご感想をお聞かせください。 ●

伊藤ハム株式会社

CSR本部 環境安全推進課 行き

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

FAX 0798-66-1302

Q1. 本報告書をお読みになったのの評価をお聞かせください。

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ● 内容 | ☐ 分かりやすい | ☐ 普通 | ☐ 分かりにくい |
| ● ページ数 | ☐ 多い | ☐ 適当 | ☐ 少ない |
| ● デザイン | ☐ 良い | ☐ 普通 | ☐ 悪い |
| ● 活動項目 | ☐ 充実している | ☐ 普通 | ☐ 不足している |

Q2. 本報告書の中で、興味をもった内容についてお聞かせください。(複数回答可)

- | | | | | |
|-------------|-------------------------|---------------------------|-----------------|------------|
| 会社基本項目 | 1) 会社概要 | 2) ごあいさつ | | |
| マネジメント | 3) 経営方針 | 4) コンプライアンス | | |
| 消費者の皆様とともに | 5) 安全・安心への取り組み | 6) お客様の声の反映 | 7) 食育 | |
| 株主・投資家様とともに | 8) 企業情報開示・IR活動 | 9) 株主総会 | 10) 株主優待制度 | |
| 地域社会とともに | 11) 社会貢献活動 | 12) 自然保護活動 | | |
| 従業員とともに | 13) 人材の育成・雇用 | 14) 労働安全衛生 | 15) 健康管理 | |
| 環境保全活動 | 16) 環境宣言 | 17) 2007年度の活動ハイライト | 18) 環境負荷の全体像 | |
| | 19) 部門別の環境負荷 | 20) 第3次中期環境目標の取り組み結果と自己評価 | 21) マネジメント | |
| | 22) 環境会計 | 23) 環境保全活動の沿革 | 24) 環境負荷低減の取り組み | 25) 環境情報開示 |
| | 26) 従業員教育・地域とのコミュニケーション | 27) 環境データ | | |

Q3. 弊社の社会活動についてどのようにお感じになりましたか。

- 1) 非常に評価できる 2) 評価できる 3) 普通 4) あまり評価できない
5) 全く評価できない [その理由: _____]

Q4. 弊社の社会活動について期待されることは何ですか。

.....
.....

Q5. 弊社の環境保全活動についてどのようにお感じになりましたか。

- 1) 非常に評価できる 2) 評価できる 3) 普通 4) あまり評価できない
5) 全く評価できない [その理由: _____]

Q6. 弊社の環境保全活動について期待されることは何ですか。

.....
.....

Q7. 本報告書をどのようなお立場でお読みになりましたか。

- ☐ お客様 ☐ お取引先 ☐ 製品の購買ご担当者 ☐ 株主 ☐ 金融・投資機関 ☐ 研究・教育機関 ☐ 報道関係
☐ 行政関係 ☐ 環境NGO・NPO ☐ 伊藤ハムグループ事業所の近隣にお住まいの方 ☐ 学生 ☐ 環境の専門家
☐ 企業の環境・CSRご担当者 ☐ その他(_____)

Q8. 本報告書の内容や社会活動、及び環境保全活動に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

.....
.....

ご協力ありがとうございました。

お答えいただきましたアンケートは、個人情報を除き統計データとして利用させていただきます。

個人情報に関しましては、ご希望により次年度の「CSR報告書」の発送にのみ利用し、

ご本人の承諾がない限り、第三者に開示することは一切ありません。

お名前				性別	男・女	年齢		ご職業・勤務先	
ご連絡先	ご住所	〒							
	TEL								

● 次年度の「CSR報告書」の送付を希望されますか? ☐ はい ☐ いいえ

「2007年社会・環境報告書」アンケート結果について

伊藤ハム「2007年社会・環境報告書」（2007年6月発行）のアンケートに多数お答えいただき、誠にありがとうございました。皆様からお寄せいただきました貴重なご意見・ご感想は、環境保全活動やCSR報告書の制作に活用させていただきました。今年度も裏面に「2008年CSR報告書」アンケート用紙となっております。本報告書を読まれてのご感想やお気づきの点などございましたら、ご記入の上ご送付いただければ幸いです。皆様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考にさせていただきます、CSR活動の取り組みや情報開示を進めてまいります。

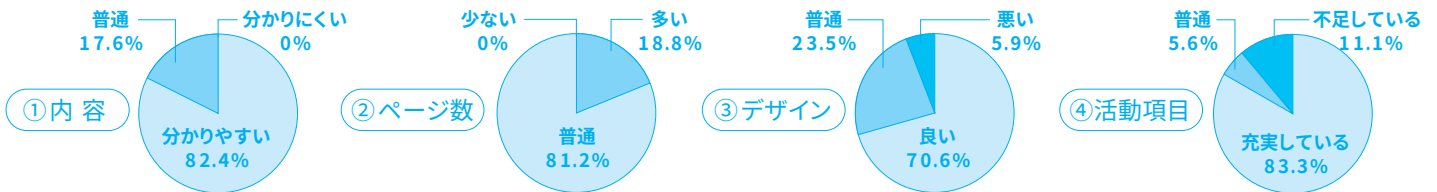
2008年6月

伊藤ハム株式会社 CSR本部 環境安全推進課 〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

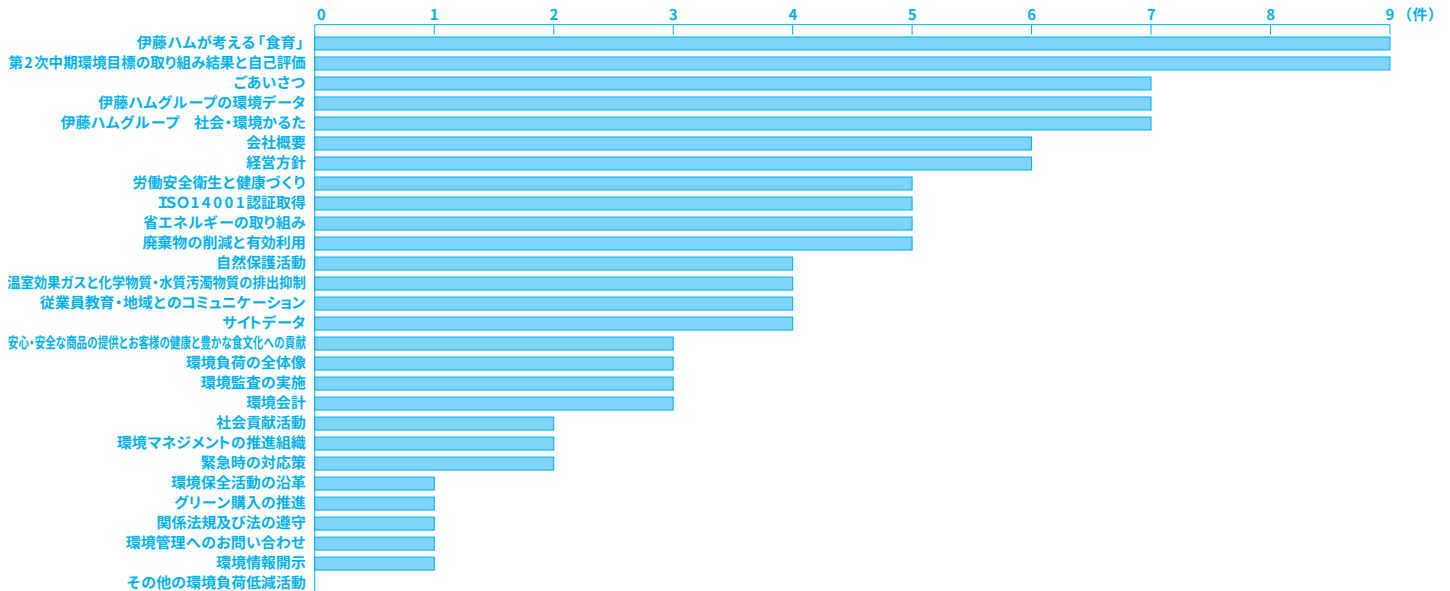
TEL: 0798-66-1289 FAX: 0798-66-1302

「2007年社会・環境報告書」アンケート集計結果(回収数19通)

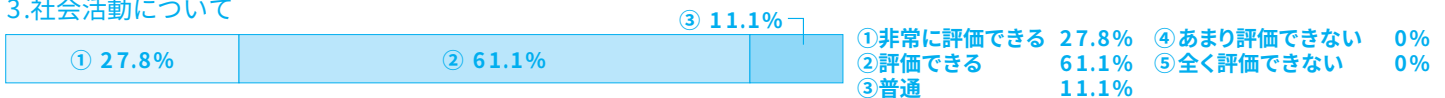
1.「2007年社会・環境報告書」の評価グラフ



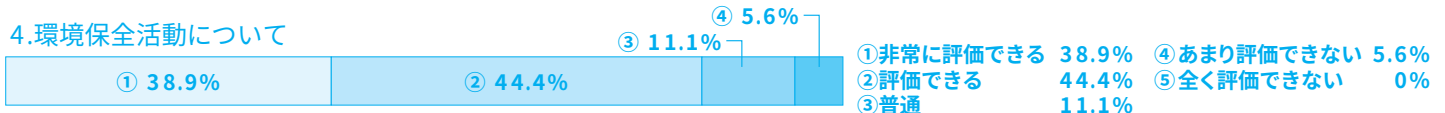
2.「2007年社会・環境報告書」の中で興味を持った内容 (件数:回答総数110件の内訳)



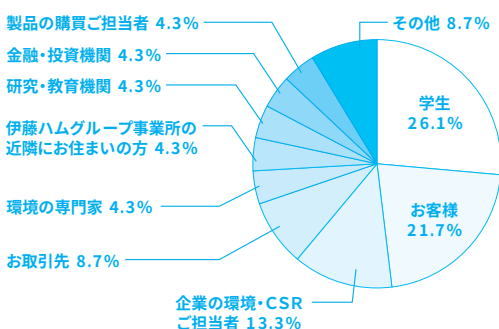
3.社会活動について



4.環境保全活動について



5.社会・環境報告書をどのようなお立場でお読みになられていますか。



6.「2007年社会・環境報告書」や環境保全活動、社会活動についてのご意見の一部をご紹介します。

- 食という分野にこだわることなく、様々な方面で社会活動を行っており感心しました。
- 写真、グラフ、マンガなどを用いて多くの人に分かりやすい内容である。
- 大変環境に力を尽くしている様子何よりです。これから環境の取り組みに期待しています。良い、美味い商品の提案もあわせて期待しています。
- 環境マネジメントシステムの徹底した推進を行う。基本である継続的な改善に無限な挑戦を期待します。
- 食を扱う企業として食べることの楽しさや大切さを伝えていくことを期待します。
- 地域社会に密着しコミュニケーションを高め、共に学んで従業員の社会への貢献認識レベルをさらに高めてください。
- ページの下にあるQ&Aは知識を深めれていいと思った。環境目標を立てて取り組んだものの、自己評価があまりよくないのが気になった。
- 「食育」という言葉はよく耳にはしますが、漠然としたイメージと知識しかありませんでした。今回の特集で初めて食育についてよく認識できました。